

ライフセービング競技規則

新旧対比表／変更点一覧

ライフセービング競技規則（2014年版）と、ライフセービング競技規則（2016年版）の変更点を一覧にまとめました。掲載順は、「2016年版」に準じます。2014年版と2016年版では掲載順序・ページが大きく異なっています。

【お詫び】

製本版に誤植がございました。訂正してお詫び申し上げます。

項目・競技種目	誤	正
目次 vii 上から 6 行目	21. <u>スクールティニア</u> （器材検査員）	21. <u>スクルーティニア</u> （器材検査員）
P.84 ビーチフラッグス (6) 失格	②1名の競技者が2本以上のバトンを取った場合、または他の競技者がバトンを取ることを妨げた場合（バトンを横たえたり、目に触れないように覆うことも含む） <u>(DQ61)</u> 。	②1名の競技者が2本以上のバトンを取った場合、または他の競技者がバトンを取ることを妨げた場合（バトンを横たえたり、目に触れないように覆うことも含む） <u>(DQ11)</u> 。
P.144 競技役員 (オフィシャル)	21. <u>スクールティニア</u> （器材検査員）	21. <u>スクルーティニア</u> （器材検査員）

日本ライフセービング協会 競技運営・審判委員会

日本ライフセービング協会 競技運営・審判委員会

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
表紙、表紙次ページ ご挨拶、など	特定非営利活動法人 日本ライフセービング協会	特定非営利活動法人 日本ライフセービング協会 ※将来の法人格転換を見据えて、削除
目次	<p>第1章 総論</p> <p>第2章 共通競技総則</p> <p>第3章 オーシャン競技規則</p> <p>第4章 プール競技規則</p> <p>第5章 シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）規則</p> <p>第6章 競技役員（オフィシャル）</p> <p>第7章 競技器材の規格</p> <p>第8章 競技会における安全対策</p> <p>第9章 付録</p>	<p>第1章 総論</p> <p>第2章 共通競技総則</p> <p>第3章 <u>プール競技規則</u></p> <p>第4章 <u>オーシャン競技規則</u></p> <p>第5章 シミュレーテッド・エマ<u>ー</u>ジェンシー・レスポンス競技（SERC）規則</p> <p>第6章 競技役員（オフィシャル）</p> <p>第7章 競技器材の規格</p> <p>第8章 競技会における安全対策</p> <p>第9章 付録 →削除</p> <p>※「水着に関する規定」は、第7章 器材の規格へ。 「失格コード表」は競技規則毎に設定される為、第3章・第4章・第5章の末項に掲載。</p>
総論	<p>P.2 第1節 ライフセービングとスポーツ</p> <p>ライフセービングとは、水辺の環境の安全性を高め、水の事故から人の命を救うための活動である。特定非営利活動法人日本ライフセービング協会（JLA）は、救命、スポーツ、教育、福祉、環境をテーマにライフセービング活動を展開している。…（略）</p>	<p>P.2 第1節 ライフセービングとスポーツ</p> <p>ライフセービングとは、水辺の環境の安全性を高め、水の事故から人の命を救うための活動である。<u>特定非営利活動法人</u>日本ライフセービング協会（JLA）は、救命、スポーツ、教育、福祉、環境をテーマにライフセービング活動を展開している。…（略）</p>
	<p>P.2 第2節 ライフセービング競技会</p> <p>1. 国際的なライフセービング競技会</p> <p>ライフセービング競技の国際的な競技会は、世界選手権とワールドゲームスがあげられる。1992年には静岡県下田市で世界選手権が開催され、日本におけるライフセービングの普及に大きな影響を与えた。また、ワールドゲームスとは、国際スポーツ団体総連合に加盟しているスポーツの中で、オリンピックで行われている以外の競技種目が行われるスポーツ・イベントである。…（略）</p>	<p>P.2 第2節 ライフセービング競技会</p> <p>1. 国際的なライフセービング競技会</p> <p>ライフセービング競技の国際的な競技会は、世界選手権とワールドゲームスがあげられる。1992年には静岡県下田市で世界選手権が開催され、日本におけるライフセービングの普及に大きな影響を与えた。また、ワールドゲームスとは、国際スポーツ団体<u>総</u>連合に加盟しているスポーツの中で、オリンピックで行われている以外の競技種目が行われるスポーツ・イベントである。…（略）</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
規 範	<p>P.6 1. 規範</p> <p>チーム・競技者、競技役員は大会の主旨、競技規則を理解し、より高いフェアプレイ精神と行動を示さなければならない。</p> <p>(1) チーム・競技者規範</p> <p>(中略)</p> <p>②チーム・競技者は、競技規則を遵守し、フェアプレイの精神により競技に挑み円滑な競技運営に協力しなければならない。</p> <p>(中略)</p> <p>④チーム・競技者は、成功や失敗、勝敗を真摯に受け入れる。</p> <p>(中略)</p> <p>⑥チーム・サポーターによる不適切行為は、重大な違反行為であり、スポーツマンシップに則っていないなければならない。</p> <p>⑦チーム・競技者は、他の競技者および競技役員に対し敬意を表し争うような行動や言動をしてはならない。</p> <p>⑧チームおよびチーム代表者は、自チームの競技者が、病気やけかを負っている場合、競技会出場の有無について責任をもって適正な判断を行う。</p>	<p>P.6 1. 規範</p> <p><u>クラブ</u>・競技者、競技役員は大会の主旨、競技規則を理解し、より高いフェアプレイ精神と行動を示さなければならない。</p> <p>(1) <u>クラブ</u>・競技者規範</p> <p>(中略)</p> <p>②<u>クラブ</u>・競技者は、競技規則を遵守し、フェアプレイの精神により競技に挑み円滑な競技運営に協力しなければならない。</p> <p>(中略)</p> <p>④<u>クラブ</u>・競技者は、成功や失敗、勝敗を真摯に受け入れる。</p> <p>(中略)</p> <p>⑥<u>クラブ</u>・サポーターによる不適切行為は、重大な違反行為であり、スポーツマンシップに則っていないなければならない。</p> <p>⑦<u>クラブ</u>・競技者は、他の競技者および競技役員に対し敬意を表し争うような行動や言動をしてはならない。</p> <p>⑧<u>クラブ</u>および<u>クラブ</u>代表者は、自チームの競技者が、病気やけかを負っている場合、競技会出場の有無について責任をもって適正な判断を行う。</p>
	<p>(2) 競技役員規範</p> <p>①競技役員は、競技者のために安全な競技環境をつくらなければならない。</p> <p>②競技役員は、競技規則と競技会の精神を遵守し誠実さ、公正さ、道徳観を以て接し、円滑な競技運営をしなければならない。</p> <p>③競技役員は、常に毅然とした態度で良識ある行動をとり、全てにおいて厳密に公平に貫かなければならない。</p>	<p>(2) 競技役員規範</p> <p><u>①競技役員は、競技会開催期間中、クラブ・競技者にコーチおよび助言をしてはならない。これに違反した競技役員はそれ以降、本競技会において競技役員の任にあたることはできない。</u></p> <p>②競技役員は、競技者のために安全な競技環境をつくらなければならない。</p> <p>③競技役員は、競技規則と競技会の精神を遵守し誠実さ、公正さ、道徳観を以て接し、円滑な競技運営をしなければならない。</p> <p>④競技役員は、常に毅然とした態度で良識ある行動をとり、全てにおいて厳密に公平に貫かなければならない。</p>

競技規則の改正点一覧表

【第2章 共通競技総則】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
競技者の参加資格	P.7 2. 競技者の参加資格 (中略)	P.7 2. 競技者の参加資格 (中略) <u>(4) 上記以外に、別途定めがある場合を除く。</u>
チーム/クラブの参加資格	P.7 3. チームの参加資格 (1) チームは、本協会の団体正会員、または団体一般会員として登録され、本協会に登録されている団体名で競技会に出場しなければならない(別途定めがある場合を除く)。 (2) チームは、同じクラブに所属する競技者により構成されていなければならない(別途定めがある場合を除く)。	P.7 3. <u>クラブ</u> の参加資格 (1) <u>クラブ</u> は、本協会の団体正会員、または団体一般会員として登録され、本協会に登録されている団体名で競技会に出場しなければならない(別途定めがある場合を除く)。 (2) <u>クラブ</u> は、同じクラブに所属する競技者により構成されていなければならない(別途定めがある場合を除く)。 <u>(3) 上記以外に別途定めがある場合を除く。</u>
クラブの人数構成	(新設)	P.7 5. <u>クラブの人数構成</u> <u>各クラブから参加できる競技者の人数構成を規定する場合は、競技者の変更手続きを含め、その方法をあらかじめ競技会前に参加クラブに周知しなければならない。</u>
競技会場	P.9 6. 競技会場 (1) オーシャン競技で使用する海岸は、競技者の安全を確保できる状態であり、競技エリアは、ロープやフェンス等を使用して区分されることが望ましい。 (2) プール競技で使用するプールは、日本水泳連盟の「プール公認規則」に基づき公認されたもので、次の規格に合うことが望ましい。 ①長さ 50m ②深さ 1.8m 以上 ③水温 25～28℃	P.8 6. 競技会場 <u>※(1)と(2)の順序が入れ替わっている。</u> <u>(1) プール競技で使用するプールは、日本水泳連盟の「プール公認規則」に基づき公認されたもので、次の規格に合うことが望ましい。</u> ①長さ 50m ②深さ 1.8m 以上 ③水温 25～28℃ <u>(2) オーシャン競技で使用する海岸は、競技者の安全を確保できる状態であり、競技エリアは、ロープやフェンス等を使用して区分されることが望ましい。</u>
	P.10 プール競技会場の図	<u>P.8 ※プール競技会場の図を差し替え(審判員役職の名称変更)</u>
得点	P.12 11. 得点 点数制によってチームの総合順位を決定する競技会の場合は、競技の採点方法を…(略)	P.9 7. 得点 点数制によって <u>クラブ</u> の総合順位を決定する競技会の場合は、競技の採点方法を…(略)
服装等	P.7 5. 服装等 (1) 競技会のスポンサーは事前に発表されるが、チームのユニフォーム、水着、キャップに競技会のスポンサーと対立するような商標、商標名の記載があると主催団体が判断した場合、	P.9 8. 服装等 (1) 競技会のスポンサーは事前に発表されるが、 <u>クラブ</u> のユニフォーム、水着、キャップに競技会のスポンサーと対立するような商標、商標名の記載があると主催団体が判断した場合、

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p data-bbox="174 794 259 826">服装等</p> <p data-bbox="132 847 300 871">(前ページの続き)</p>	<p data-bbox="371 225 1249 293">その対応は主催団体の指示に従わなければならない（ボディペインティングおよびタトゥー類等も含む）。</p> <p data-bbox="371 320 1249 485">(2) 各チームは、式典や表彰式および競技に適したユニフォーム、水着、キャップを持たなければならない。ラッシュガード、T シャツ、ショートパンツ、ロングタイツもしくはストッキングは、ビーチ種目およびラインスローにおいて主催団体から特別な指示がない限り競技中、任意に着用することができる。</p> <p data-bbox="371 512 1249 580">(3) オーシャン競技サーフ種目に出場する競技者は、本協会に指定されたラッシュベストを着用しなければならない。</p> <p data-bbox="371 655 1249 820">(4) ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般良識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる競技者も競技に参加することができない。また、審判長が好ましくないとみなすサイン、ロゴ、企業名を使用してはならない。競技後に違反が見つかった場合、競技者の順位を失う。</p> <p data-bbox="371 847 1249 916">(5) 水着に関する取り扱いは、本協会が定めた規定に準拠していなければならない（水着に関する規定参照）。</p> <p data-bbox="371 1182 1249 1251">(6) キャップは、競技会の前に本協会に登録されていなければならない（キャップ登録に関する規定参照）。</p> <p data-bbox="371 1326 1249 1442">(7) キャップは、競技者の識別や判定のために重要であるため、スタートの前に紐をあごの下で留めて競技者の頭に着用しなければならない。ただし、プール競技では、チーム全員が同様の色とパターンであればメッシュ、ゴム、またはシリコンのキャップも認められる。ス</p>	<p data-bbox="1276 225 2154 293">その対応は主催団体の指示に従わなければならない（ボディペインティングおよびタトゥー類等も含む）。</p> <p data-bbox="1276 320 2154 485">(2) 各<u>クラブ</u>は、式典や表彰式および競技に適したユニフォーム、水着、キャップを持たなければならない。ラッシュガード、T シャツ、ショートパンツ、ロングタイツもしくはストッキングは、ビーチ種目およびラインスローにおいて主催団体から特別な指示がない限り競技中、任意に着用することができる。</p> <p data-bbox="1276 512 2154 628">(3) オーシャン競技サーフ種目に出場する競技者<u>およびハンドラー</u>は、本協会から指定されたラッシュベストを着用しなければならない（<u>ラッシュベストに関する規定参照</u>）。<u>ラッシュベストは水着、ユニフォーム、防寒着、ウエットスーツの上から着用しなければならない。</u></p> <p data-bbox="1276 655 2154 820">(4) ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般良識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる競技者も競技に参加することができない。また、<u>チーフレフリー</u>が好ましくないとみなすサイン、ロゴ、企業名を使用してはならない。競技後に違反が見つかった場合、競技者の順位を失う。</p> <p data-bbox="1276 847 2154 871">(5) <u>競技者が、着用する水着は第7章に定められる水着に適合すること。</u></p> <p data-bbox="1276 895 2154 919"><u>①一般良識に反し不快感を与えるものであってはならない。</u></p> <p data-bbox="1276 943 2154 1059"><u>②競技者は、競技に有利とならなければ、水着の下に繊維素材の水着「モDESTY水着」を着用することができる。これらの水着は男子はショースタイルに、女子はツーピーススタイルに限る。</u></p> <p data-bbox="1276 1086 2154 1155"><u>③宗教的・文化的多様性の観点から、競技に有利とならなければ身体の大部分を覆うような繊維素材の水着（体系にぴったりしていないもの）を着用することが認められる。</u></p> <p data-bbox="1276 1182 2154 1206">(6) <u>キャップについて</u></p> <p data-bbox="1276 1230 2154 1299"><u>①</u>キャップは、競技会の前に本協会に登録されていなければならない（キャップ登録に関する規定参照）。</p> <p data-bbox="1276 1326 2154 1442"><u>②</u>キャップは、競技者の識別や判定のために重要であるため、スタートの前に紐をあごの下で留めて競技者の頭に着用しなければならない。<u>また、ゴールをした後、審判員の指示があるまでキャップを脱いではならない。</u></p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p data-bbox="174 794 259 826">服装等</p> <p data-bbox="129 847 300 874">(前ページの続き)</p>	<p data-bbox="371 220 1249 296">タートの後に、キャップがとれたり、失った場合、違反なしに競技が終了できていれば失格とはならない。ただし、その競技者が公正に種目を終了したことが確認できる場合に限る。</p> <p data-bbox="371 512 1249 632">(8) ボードおよびサーフスキーを使用する種目・区間において、競技者は、キャップと同じ条件で安全ヘルメットを着用することができる。ヘルメットは、チームカラー、チームデザインに沿ったものでなければならない。</p> <p data-bbox="371 655 1249 823">(9) ウェットスーツは、水温（水面下約 30cm で計測）が 16℃以下、またはその他自然状況により安全上必要であると審判長または主催団体が判断した場合に限り、オーシャン競技において許可される。水温が 13℃以下の場合ウェットスーツを着用しなければならない、ウェットスーツは、「第 7 章競技器材の規格」の基準を満たさなければならない。</p> <p data-bbox="371 847 1249 874">(10) ボードおよびサーフスキー種目・区間においては救命胴衣を着用してもよい。</p> <p data-bbox="371 943 1249 1062">(11) シューズは、着用することができない。ただし、オーシャン競技におけるビーチスプリント、ビーチリレー、2km(1km)ビーチラン、およびプール競技におけるマネキン・ハンドラーは大会規定による。</p> <p data-bbox="371 1086 1249 1163">(12) 競技者は、主催団体から指定ウェアを着用する指示があった場合はそれに従わなければならない。</p> <p data-bbox="371 1187 1249 1355">(13) オーシャン競技の場合、ボード、サーフスキーおよびパドルの滑り止めのためにワックス等を塗布することが認められる。プール競技の場合、マネキンやレスキューチューブの滑り止め、またはプールの底を蹴りやすくするために、競技者の手や足、またはマネキンやレスキューチューブに粘着性のある物（液体、固形、煙霧質）を塗布してはならない。</p> <p data-bbox="371 1378 1249 1450">(14) 眼鏡の着用、ゴーグルの使用は認められている。サングラス、視力矯正用眼鏡は全ての種目で許可される。ただし、競技種目に適したデザインに限る。</p>	<p data-bbox="1276 220 2154 296"><u>③オーシャン競技用のキャップを使用する場合は、キャップの下にメッシュ、ゴムまたはシリコンのキャップを着用してもよい。</u></p> <p data-bbox="1276 320 2154 397">④プール競技では、<u>クラブ</u>全員が同様の色とパターンであればメッシュ、ゴムまたはシリコンのキャップも認められる。</p> <p data-bbox="1276 421 2154 497">⑤スタートの後にキャップがとれたり、失った場合、違反なしに競技が終了できていれば失格とはならない。ただし、その競技者が公正に種目を終了したことが確認できる場合に限る。</p> <p data-bbox="1276 521 2154 633">⑦ ボードおよびサーフスキーを使用する種目・区間において、競技者は、キャップと同じ条件で<u>安全</u>ヘルメットを着用することができる。<u>ヘルメットは、チームカラー、チームデザインに沿ったものでなければならない。</u></p> <p data-bbox="1276 657 2154 825">⑧ ウェットスーツは、水温（水面下約 30cm で計測）が 16℃以下、またはその他自然状況により安全上必要であると<u>チーフレフリー</u>または主催団体が判断した場合に限り、オーシャン競技において許可される。水温が 13℃以下の場合ウェットスーツを着用しなければならない。ウェットスーツは、「第 7 章<u>競技器材の規格</u>」の基準を満たさなければならない。</p> <p data-bbox="1276 849 2154 924">⑨ <u>ボードおよびサーフスキー種目・、サーフスキー、オーシャンマン/オーシャンウーマンの個人種目およびリレー種目のクラフト</u>区間においては救命胴衣を着用してもよい。</p> <p data-bbox="1276 948 2154 1067">⑩ シューズは、着用することができない。ただし、オーシャン競技における<u>ビーチスプリント、ビーチリレー、2km(1km)ビーチラン、2×1km ビーチランリレー</u>およびプール競技におけるマネキン・ハンドラーは大会規定による。</p> <p data-bbox="1276 1091 2154 1168">⑪ 競技者は、主催団体から指定ウェアを着用する指示があった場合はそれに従わなければならない。</p> <p data-bbox="1276 1192 2154 1359">⑫ オーシャン競技の場合、ボード、サーフスキーおよびパドルの滑り止めのためにワックス等を塗布することが認められる。プール競技の場合、マネキンやレスキューチューブの滑り止め、またはプールの底を蹴りやすくするために、競技者の手や足、またはマネキンやレスキューチューブに粘着性のある物（液体、固形、煙霧質）を塗布してはならない。</p> <p data-bbox="1276 1383 2154 1458">⑬ 眼鏡の着用、ゴーグルの使用は認められている。<u>(シミュレーテッド・エマーゼンシー・レスポンス競技を除く)</u>。サングラス、視力矯正用眼鏡は全ての種目で許可される。ただ</p>

競技規則の改正点一覧表

【第2章 共通競技総則】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
服装等 （前ページの続き）		し、競技種目に適したデザインに限る。 <u>(14) 予防、医療、治療または運動目的で使用されるボディテープは、競技に有利にならなければチーフレフリーおよびセクショナルレフリーの判断で認められる。</u>
器 材	P.11 7. 競技器材 (1) 競技で使用する器材は「第7章競技器材の規格」の基準を満たさなければならない。 （中略） (4) プール競技で使用する障害物、レスキューチューブ、マネキンおよびラインスロー用ラインは、主催団体が用意するものとする。 （中略） (6) 主催団体は、競技者の競技器材の検査・再検査を競技前、競技中、競技終了後任意に行うことができる。競技器材が規格基準を満たしていない場合は、その競技者はその器材を使用できないか、または失格となる。 (7) 競技者は、主催団体から競技器材にステッカー等の標示を貼付する指示があった場合は、それに従わなければならない。 (8) プール競技では、競技者（チーム）が使用したレスキューチューブに欠陥があったと審判長が認めた場合、審判長はその競技者（チーム）に再レースを行わせることができる。	P.11 9. 競技器材 (1) 競技で使用する器材は「第7章競技器材の規格」の基準を満たさなければならない。 （中略） (4) プール競技で使用する障害物、レスキューチューブ、マネキンおよび <u>スローライン</u> は、主催団体が用意するものとする。 （中略） (6) 主催団体は、競技者の 競技 器材の検査・再検査を競技前、競技中、競技終了後任意に行うことができる。競技器材が規格基準を満たしていない場合は、 <u>その競技者</u> はその器材を使用できないか、または失格となる。 (7) 競技者は、主催団体から 競技 器材にステッカー等の標示を貼付する指示があった場合は、それに従わなければならない。 (8) プール競技では、競技者（チーム）が使用したレスキューチューブに欠陥があったと <u>チーフレフリー</u> が認めた場合、 <u>チーフレフリー</u> はその競技者（チーム）に再レースを行わせることができる。
競技者の交代	P.12 9. 競技者の交代 個人種目における競技者の交代は認められない。ただし、リレー、団体種目の場合、同じチームの競技者として登録されていれば、いかなる競技者とも交代することができる。	P.12 10. 競技者の交代 個人種目における競技者の交代は認められない。ただし、リレー、 <u>チーム</u> 種目の場合、同じ <u>クラブ</u> の競技者として登録されていれば、いかなる競技者とも交代することができる。
ハンドラー／ マネキン・ハンドラー	P.11 8. ハンドラー (1) ハンドラーは、同一チームの競技者の中から選出されなければならない。ただし、出場確認時までに審判長が特別に認めた場合、同一チーム以外の競技者からハンドラーを選出することができる。 (2) ハンドラーは、自チームのキャップを着用しなければならない。 (3) ハンドラーは、競技中、他の競技者の進路を妨害しないように自チームの競技者の器材	P.12 11. ハンドラー／<u>マネキン・ハンドラー</u> (1) ハンドラー/ <u>マネキン・ハンドラー</u> は、 <u>自クラブ</u> の競技者の中から選出されなければならない。ただし、出場確認時までに <u>チーフレフリー</u> が特別に認めた場合、 <u>自クラブ</u> 以外の競技者からハンドラー/ <u>マネキン・ハンドラー</u> を選出することができる。 (2) ハンドラー/ <u>マネキン・ハンドラー</u> は、 <u>自クラブ</u> のキャップを着用しなければならない。 (3) ハンドラーは競技中、他の競技者の進路を妨害しないように <u>自クラブ</u> の競技者の器材を

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
ハンドラー／ マネキン・ハンドラー （前ページの続き）	を準備・回収しなければならない。また、ハンドラーは、競技規則に規定されている以外の助力を競技者に与えてはならない。	準備・回収しなければならない。また、ハンドラー／ <u>マネキン・ハンドラー</u> は、競技規則に規定されている以外の助力を競技者に与えてはならない。
不正行為	<p>P.12 12. 不正行為</p> <p>(1) チーム・競技者（ハンドラーを含む）は、審判によって不正行為をしたと判断された場合、その競技が失格となるか、または競技会から除外される。審判は規律委員会に報告し、処遇決定を委任することがある。不正行為とは、以下のような場合等をいう。</p> <p>（中略）</p> <p>④他のチームの競技者として、同じ種目に2度出場した場合</p> <p>⑤故意に他の競技者を妨害した場合</p> <p>⑥他の競技者またはハンドラーを押ししたり、進路を妨害した場合</p> <p>⑦競技者が外部から身体的または物質的な助力を受けた場合（障害競技者のため主催団体が特別に認めた場合を除く）審判長またはそれと同等の審判員は、競技者、チーム、またはハンドラーが不正行為をしたか否かを判断をする権限を持つ。</p> <p>(2) 不正行為については、審判長またはそれと同等の審判員によって決定することができる。</p> <p>(3) 不正行為において主催団体および審判長またはそれと同等の審判員によって、競技会前、競技会中、競技会後に調査することができる。</p> <p>（中略）</p> <p>(5) 不正行為で失格とした場合、審判員は規律委員会に報告することができる。規律委員会はチーム・競技者に更なる罰則を課すことができる。</p>	<p>P.13 12. 不正行為</p> <p>(1) チーム・競技者（ハンドラー／<u>マネキン・ハンドラー</u>を含む）・<u>チーム</u>は、審判によって不正行為をしたと判断された場合、その競技が失格となるか、または競技会から除外される。<u>チーフレフリー</u>は規律委員会に報告し、処遇決定を委任することがある。不正行為とは、以下のような場合等をいう。</p> <p>（中略）</p> <p>④他の<u>クラブ</u>の競技者として、同じ種目に2度出場した場合</p> <p>⑤<u>自分が、優位になるように</u>故意に他の競技者を妨害した場合</p> <p>⑥<u>登録しないまま競技を行なった場合</u></p> <p>⑦<u>規則に適合しない器材を用いて競技を行なった場合</u></p> <p>⑧<u>審判員または審判員に依頼された者の指示に反し競技を行なった場合</u></p> <p>⑨他の競技者またはハンドラーを押ししたり、進路を妨害した場合</p> <p>⑩競技者が外部から身体的または物質的な助力を受けた場合（障害競技者のため主催団体が特別に認めた場合を除く）、<u>チーフレフリー</u>またはそれと同等の審判員は、競技者・<u>チーム</u>、またはハンドラー／<u>マネキン・ハンドラー</u>が不正行為をしたか否かを判断をする権限を持つ。</p> <p>(2) 不正行為については、<u>チーフレフリー</u>またはそれと同等の審判員によって決定することができる。</p> <p>(3) 不正行為において主催団体および<u>チーフレフリー</u>またはそれと同等の審判員によって、競技会前、競技会中、競技会後に調査することができる。</p> <p>（中略）</p> <p>(5) 不正行為で失格とした場合、審判員は規律委員会に報告することができる。規律委員会はチーム・競技者・<u>チーム</u>に更なる罰則を課すことができる。</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
失格およびDNF	<p>P.13 13. 失格およびDNF</p> <p>チーム・競技者は、参加した種目の失格や競技会の出場停止となる場合がある。</p> <p>(1) チーム・競技者は、以下の場合、失格（参加した全ての種目）となる。</p> <p>（中略）</p> <p>(2) チーム・競技者は、以下の場合、失格（当該種目）となる。</p> <p>（中略）</p> <p>(5) 競技終了時に、競技者は審判長またはそれと同等の審判員から失格を通告される。競技者は、審判長の許可があるまで競技エリアから離れてはならない。</p> <p>(6) 競技者の違反が競技役員の実ミスによってもたらされた場合、審判長の判断により競技者の違反は取り消すことができる。</p>	<p>P.14 13. 失格およびDNF</p> <p><u>クラブ</u>・競技者は、参加した種目の失格や競技会の出場停止となる場合がある。</p> <p>(1) <u>クラブ</u>・競技者は、以下の場合、失格（参加した全ての種目）となる。</p> <p>（中略）</p> <p>(2) <u>チーム</u>・競技者・<u>チーム</u>は、以下の場合、失格（当該種目）となる。</p> <p>（中略）</p> <p>(5) 競技終了時に、競技者は<u>チーフレフリー</u>またはそれと同等の審判員から失格を通告される。競技者は、<u>チーフレフリーまたは同等の審判員</u>の許可があるまで競技エリアから離れてはならない。</p> <p>(6) 競技者の違反が競技役員の実ミスによってもたらされた場合、<u>チーフレフリー</u>の判断により競技者の違反は取り消すことができる。</p>
抗議と上訴	<p>P.14 15. 抗議と上訴</p> <p>（中略）</p> <p>(2) 競技者は、以下について審判長または競技別審判長に抗議することができる。しかし、スタートに関するスターターの判断、着順審判員の着順決定およびシミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技の採点に対する抗議は受け入れられない。</p> <p>（中略）</p> <p>(3) 抗議に関する手続きは以下の通りである。</p> <p>①競技種目のコースおよびレーンや組み合わせ等、競技が行われる条件についての抗議は、競技開始の前に審判長または競技別審判長に口頭で行われなければならない。また、抗議があったことを審判長または競技別審判長は、競技開始前に競技者に伝えなければならない。</p> <p>②①以外の抗議は、競技者本人または代理人が、競技結果の掲示、または審判長（競技別審判長）からの通告のうち、どちらか早く行われた時刻から15分以内に口頭で審判長（競技別審判長）に行われなければならない。さらに口頭による抗議後15分以内に、別掲の形式に</p>	<p>P.15 15. 抗議と上訴</p> <p>（中略）</p> <p>(2) 競技者は、以下について<u>チーフレフリー</u>または<u>セクショナルレフリー</u>に抗議することができる。しかし、スタートに関するスターターの判断、<u>フィニッシュジャッジ</u>の着順決定およびシミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技の採点に対する抗議は受け入れられない。</p> <p>（中略）</p> <p>(3) 抗議に関する手続きは以下の通りである。</p> <p>①競技種目のコースおよびレーンや組み合わせ等、競技が行なわれる条件についての抗議は、競技開始の前に<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u>に口頭で行われなければならない。また、抗議があったことを<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u>は、競技開始前に競技者に伝えなければならない。</p> <p>②①以外の抗議は、競技者本人または<u>クラブ代表者</u>が、競技結果の掲示、または<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u>からの通告のうち、どちらか早く行われた時刻から15分以内に口頭で<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u>に行われなければならない。さらに口</p>

競技規則の改正点一覧表

【第2章 共通競技総則】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p data-bbox="143 751 291 826">抗議と上訴 (前ページの続き)</p>	<p data-bbox="371 225 1061 245">準じた抗議申立書を審判長（競技別審判長）に提出しなければならない。</p> <p data-bbox="371 272 448 293">(中略)</p> <p data-bbox="371 320 1249 485">④審判長または競技別審判長は、抗議を裁定するために公式のビデオ記録や写真等を参考にすることができる。競技者または代理人がビデオ映像などを用いて抗議を行う場合は、30分以内のビデオにまとめ、抗議内容の信憑性の証拠を提供（映像再生機器を含む）しなければならない。</p> <p data-bbox="371 512 1249 628">⑤審判長または競技別審判長は、その抗議を裁定することも、上訴委員に付託することもできる。審判長または競技別審判長が裁定したとしても、競技者は上訴委員に上告することができる。</p> <p data-bbox="371 655 1249 820">⑥競技者が上訴委員に上告する場合は、審判長または競技別審判長の裁定から30分以内に、競技者に代わって責任あるチーム役員が署名した抗議申立書と預託金 10,000 円を添えなければならない。この預託金は抗議が認められ裁定が覆った場合に返金される。裁定が覆らない場合は没収される。また、審判長からの付託についても同様に費用が発生する。</p> <p data-bbox="371 895 1249 1059">⑦上訴委員は上訴委員長によって若干名任命され、審判長によって付託された抗議について裁定する。その際、公式のビデオ記録や写真等を参考にしたり、競技者や審判員から意見を聞くことができる。裁定については非公開にて決定される。上訴委員の裁定は変更できず、抗議する権利はない。</p> <p data-bbox="371 1086 1249 1155">⑧上訴委員をおかない競技会では、審判長が最終的に抗議を裁定する。従って、主催団体は、あらかじめそのことを参加チームまたは競技者に周知しなければならない。</p>	<p data-bbox="1276 225 2159 293">頭による抗議後 15 分以内に、別掲の形式に準じた抗議申立書を <u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u> に提出しなければならない。</p> <p data-bbox="1276 320 1352 341">(中略)</p> <p data-bbox="1276 368 2159 533">④<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u> は、抗議を裁定するために公式のビデオ記録や写真等を参考にすることができる。競技者または <u>クラブ代表者</u> がビデオ映像などを用いて抗議を行なう場合は、30分以内のビデオにまとめ、抗議内容の信憑性の証拠を提供（映像再生機器を含む）しなければならない。</p> <p data-bbox="1276 560 2159 676">⑤<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u> は、その抗議を裁定することも、上訴委員に付託することもできる。<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u> が裁定したとしても、競技者は上訴委員に上告することができる。</p> <p data-bbox="1276 703 2159 916">⑥競技者が上訴委員に上告する場合は、<u>チーフレフリー（セクショナルレフリー）</u> の裁定から30分以内に、競技者に代わって <u>クラブ代表者</u> が署名した抗議申立書と預託金 10,000 円を添えなければならない。この預託金は抗議が認められ裁定が覆った場合に返金される。裁定が覆らない場合は没収される。また、<u>チーフレフリー</u> からの付託についても同様に費用が発生する。</p> <p data-bbox="1276 943 2159 1107">⑦上訴委員は上訴委員長によって若干名任命され、<u>チーフレフリー</u> によって付託された抗議について裁定する。その際、公式のビデオ記録や写真等を参考にしたり、競技者や審判員から意見を聞くことができる。裁定については非公開にて決定される。上訴委員の裁定は変更できず、抗議する権利はない。</p> <p data-bbox="1276 1134 2159 1203">⑧上訴委員をおかない競技会では、<u>チーフレフリー</u> が最終的に抗議を裁定する。従って、主催団体は、あらかじめそのことを参加 <u>クラブ</u> または <u>競技者</u> に周知しなければならない。</p>
	P.16 抗議と上訴の図	<u>P.17 抗議と上訴の図を差し替え</u>
	P.17 抗議申立書	<u>P.18 抗議申立書を差し替え</u> <u>P.19 上訴申立書を新たに追加</u>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
出場確認および招集	<p>P.74 2. 出場確認および招集</p> <p>(1) プール競技において出場確認を行うかどうかは、審判長の判断による。出場確認を行う場合、競技者または代理人は、競技開始予定時間の30分前（出場確認）までに各競技種目の招集場所で出場確認の手続きを行わなければならない。時間までに出場確認を行わなかった場合は、原則として失格となる。</p> <p>(2) 競技者は、競技開始予定時間の10分前（招集）までに、招集場所に集合し審判員の指示により整列する。</p> <p>(3) 競技会当日のコンディション等により、審判長の判断でタイムテーブルが変更されることがある。その場合は公式掲示板に変更後のタイムテーブルが掲示され、そのタイムテーブルの変更に伴い出場確認の締め切り時間も変更される。</p>	<p>P.22 2. 出場確認および招集</p> <p>(1) プール競技において出場確認を行なうかどうかは、<u>チーフレフリー</u>の判断による。出場確認を行なう場合競技者または代理人は、<u>競技開始予定時間の30分前（出場確認）</u>までに各競技種目の招集場所で出場確認の手続きを行わなければならない。<u>指定された</u>時間までに出場確認を行わなかった場合は、原則として失格となる。</p> <p>(2) 競技者は<u>指定された時間</u>までに招集場所に集合し、審判員の指示により整列する。</p> <p>(3) 競技会当日のコンディション等により、<u>チーフレフリー</u>の判断でタイムテーブルが変更されることがある。その場合は<u>競技者に周知しなければならない。</u></p>
スタート	<p>P.75 3. スタート</p> <p>(1) スタートは、1回制（1スタートルール）、または2回制（2スタートルール）が採用され、主催団体はどちらの方法で競技が行われるのか事前に競技者に周知しなければならない。</p> <p>(2) スタートは、競技種目規定に準じ飛込スタート、または水中スタートのどちらかの方法で行われる（ラインスローを除く）。</p> <p>（中略）</p> <p>②水中スタート</p> <p>（ア）1回目の長いホイッスルによって、競技者はプールに入る。</p> <p>（中略）</p> <p>（ウ）競技者は、一方の手にマネキンを水面に保持し、もう一方の手をプールの端壁またはスターティンググリップを掴み、水中からスタートする。</p> <p>（エ）スターターは、全ての競技者がスタート位置についたら、…（略）</p>	<p>P.23 3. スタート</p> <p>(1) スタートは、1回制（1スタートルール）<u>とする。</u></p> <p>(2) スタートは、競技種目規定に準じ飛込スタート、または水中スタートのどちらかの方法で行われる（ラインスローを除く）。</p> <p>（中略）</p> <p>②水中スタート</p> <p>（ア）1回目の長いホイッスルによって、<u>マネキンリレーの第1競技者およびラインスローの溺者役および傷病者役</u>はプールに入る。</p> <p>（中略）</p> <p>（ウ）<u>マネキンリレーの第1競技者</u>は一方の手にマネキンを水面に保持し、もう一方の手<u>で</u>プールの端壁またはスターティンググリップを掴み水中からスタートする。</p> <p><u>（エ）ラインスローの溺者役および傷病者役は、割り当てられたレーン内で固定されたクロスバーの救助者側で立ち泳ぎをする。溺者役および傷病者役はスローラインとクロスバーの両方を片手または両手で掴む。</u></p> <p><u>（オ）</u>スターターは、全ての競技者がスタート位置についたら、…（略）</p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
不正スタート	<p>P.75 4. 不正スタート</p> <p>(1) 1回制のスタートを採用する場合、スタート合図の前に前方へのスタート動作を起こした競技者は不正スタートとして失格となる。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) スタート合図の前に明らかに不正スタートをしたとみなされる場合は、スタートの合図をしないで、その競技者を失格とする。他の競技者については、再スタートをする。</p> <p>(4) 2回制のスタートを採用する場合、1回目の不正スタートでは、スタートの合図と同じ合図を繰り返すと共に、フライングローブを落とし、競技者を呼び戻す。2回目において不正スタートが繰り返された場合は、それが第1回目と同じ競技者であるか否かに拘わらず違反した競技者のみを失格とする。その場合は、スタートをやり直す必要はない。</p> <p>(5) 競技者の過ちが、競技役員によってもたらされた場合は、審判長はこれを取り消し、再スタートを行う。</p> <p>(中略)</p> <p>(8) 1人あるいはそれ以上の競技者が前方へのスタート動作を起こしたか否かの判断は、スターターによる。一般に、ある競技者のスタート動作が他の競技者の不正スタートにつられて生じた場合は、不正スタートによる失格とはしない。</p>	<p>P.23 4. 不正スタート</p> <p>(1) <u>スタートの合図をする前にスタートした(すなわち、スタート動作を開始した)競技者は全て失格となる。</u></p> <p>(中略)</p> <p>(3) スタート<u>の</u>合図の前に明らかに不正スタートをしたとみなされる場合は、スタートの合図をしないで、その競技者を失格とする。他の競技者については、再スタートをする。</p> <p>(4) <u>競技者を呼び戻す合図は、</u>スタートの合図と同じ合図を繰り返すと共にフライングローブを落とし競技者を呼び戻す。<u>チーフレフリーまたはチーフレフリーが指名した者が、スタートが不正であったと判断した場合、チーフレフリーまたはチーフレフリーが指名した者はスタートが公平でなかったと判定し、ホイッスルを吹いてその後に再スタートを行なう。</u></p> <p>(5) 競技者の過ちが競技役員によってもたらされた場合は、<u>チーフレフリー</u>はこれを取り消し再スタートを行なう。</p> <p>(中略)</p> <p>(8) 1人あるいはそれ以上の競技者が前方へのスタート動作を起こしたか否かの判断は、スターターによる。一般に、ある競技者のスタート動作が他の競技者の不正スタートにつられて生じた<u>と判断された</u>場合は、不正スタートによる失格とはしない。</p>
レスキューチューブの扱い方	<p>P.76 5. レスキューチューブの扱い方</p> <p>(中略)</p> <p>(2) レスキューチューブは、マネキンの両腕の下で、クリップをオーリングにかけて正しくつけなければならない。</p> <p>(3) レスキューチューブを用いて溺者役またはマネキンを引っ張る場合、紐を十分に伸ばした状態で、救助者の後ろで引っ張らなければならない…(略)</p> <p>(4) レスキューチューブを正しく着用していれば、肩掛け部分の紐の輪が競技者の腕や肘に落ちて失格にはならない。</p>	<p>P.24 5. レスキューチューブの扱い方</p> <p>(中略)</p> <p>(2) <u>レスキューチューブは、マネキンに巻きつけるまではクリップをオーリングにかけてはならない。</u></p> <p>(3) レスキューチューブは、マネキンの両腕の下でクリップをオーリングにかけて正しくつけなければならない。</p> <p>(4) レスキューチューブを用いて溺者役またはマネキンを引っ張る場合、紐を十分に伸ばした状態で、救助者の後ろで引っ張らなければならない…(略)</p> <p>(5) レスキューチューブを正しく着用していれば、肩掛け部分の紐の輪が競技者の腕や肘に落ちて失格にはならない。</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
マネキンの扱い方	<p>P.77 6. マネキンの扱い方</p> <p>(中略)</p> <p>(2) マネキンを運ぶ(キャリア)</p> <p>(中略)</p> <p>③競技者は、マネキンを押ししたり、マネキンの喉、口、鼻および目に手をかけたり、掴んでマネキンを水面下で運んではならない。</p> <p>(中略)</p> <p>⑦「マネキンを運ぶ(キャリア)」の規則は、マネキンの頭頂部が5mライン(マネキンキャリアー、レスキューメドレー、スーパーライフセーバー)または10mライン(マネキンキャリアー・ウィズフィン)を越えた時点から適用される。</p> <p>⑧マネキンリレーの場合、第1競技者と第3競技者のスタートゾーン、およびチェンジオーバーゾーン内では、「マネキンを運ぶ(キャリア)」の規則は適用されない。スタートゾーンおよびチェンジオーバーゾーン内とは、マネキンの頭頂部がゾーンに入ってからゾーンを越える前までとする。</p> <p>(3) レスキューチューブを用いてマネキンを引っ張る(トウ)</p> <p>(中略)</p> <p>②競技者はマネキンの頭頂部が5mラインを越える前にマネキンの両腕の下にレスキューチューブをつけ、クリップをオーリングにかけなければならない。</p> <p>(中略)</p>	<p>P.25 6. マネキンの扱い方</p> <p>(中略)</p> <p>(2) マネキンを運ぶ(キャリア)</p> <p>(中略)</p> <p>③競技者は、マネキンを押ししたり、マネキンの喉、口、鼻および目に手をかけたり、<u>掴んで</u>マネキンを水面下で運んではならない。<u>「押す」とはマネキンの頭頂部が競技者の頭頂部の前方で運ばれることをいう。</u></p> <p>(中略)</p> <p><u>⑦競技者およびマネキンが「水面下」にある場合は失格となる。競技者が通常のストロークまたはキックサイクルの一部として水面下に沈めた場合でも、競技者が競技中にその身体のどこか一部が水面から出ていれば失格とはならない。</u></p> <p><u>⑧競技者の身体がマネキンを覆ってはならない。</u></p> <p>⑨「マネキンを運ぶ(キャリア)」の規則は、マネキンの頭頂部が5mライン(マネキンキャリアー、レスキューメドレー、スーパーライフセーバー)または10mライン(マネキンキャリアー・ウィズフィン)を越えた時点から適用される。</p> <p>⑩マネキンリレーの場合、第1競技者と第3競技者のスタートゾーン、およびチェンジオーバーゾーン内では、「マネキンを運ぶ(キャリア)」の規則は適用されない。スタートゾーンおよびチェンジオーバーゾーン内とは、マネキンの頭頂部がゾーンに入ってからゾーンを越える前までとする。</p> <p>(3) レスキューチューブを用いてマネキンを引っ張る(トウ)</p> <p>(中略)</p> <p>②競技者はマネキンの頭頂部が5mラインを越える前にマネキンの両腕の下にレスキューチューブのクリップをオーリングにかけなければならない。</p> <p>(中略)</p> <p><u>⑤マネキンがレスキューチューブの中で回転し、マネキンの頭部が下を向いてしまったり水面下に潜ってはならない。</u></p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
マネキンの扱い方 (前ページの続き)	<p>⑤競技者は、マネキンの頭頂部が10mラインを越える前に、できるだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない…(略)</p> <p>⑥レスキューチューブをマネキンに正しくつけた後、レスキューチューブとマネキンが離れた場合は失格となる。ただし、…(以下、略)</p>	<p>⑥競技者は、マネキンの頭頂部が10mラインを越える前に、できるだけ速やかにレスキューチューブの紐を十分に伸ばした状態にしなければならない…(略)</p> <p>⑦レスキューチューブをマネキンに正しくつけた後、レスキューチューブとマネキンが離れた場合は失格となる。ただし、…(以下、略)</p>
マネキン・ハンドラー	<p>P.79 7. マネキン・ハンドラー</p> <p>(1) マネキントウ・ウィズフィン、スーパーライフセーバーの両種目では、マネキン・ハンドラーは、同一チームの競技者の中から選出されなければならない。ただし出場確認時までに審判長が特別に認めた場合、同一チーム以外の競技者からマネキン・ハンドラーを選出することができる。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) マネキン・ハンドラーは自チームのキャップを着用しなければならない。</p> <p>(中略)</p>	<p>P.27 7. マネキン・ハンドラー</p> <p>(1) マネキントウ・ウィズフィン、スーパーライフセーバーの両種目では、マネキン・ハンドラーは、同一<u>クラブ</u>の競技者の中から選出されなければならない。ただし出場確認時までに<u>チーフレフリー</u>が特別に認めた場合、同一<u>クラブ</u>以外の競技者からマネキン・ハンドラーを選出することができる。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) マネキン・ハンドラーは自<u>クラブ</u>のキャップを着用しなければならない。</p> <p>(中略)</p>
プールの使用	<p>P.79 8. プールの使用</p> <p>(中略)</p> <p>(4) 終了の合図は審判長もしくはそれに準ずる者が出す。</p> <p>(5) 全ての競技において、競技者はレース終了後、審判員による退水の合図があるまで指定されたレーン内の水中にいないなければならない。また、競技者がプールから退水する際は、左右どちらかのプールサイドから退水しなければならない(タッチ板の上から退水してはならない)。ただし、リレーの場合、第1、第2、第3競技者は、それぞれの区間が終了したら他の競技者を妨害することなく直ちにプールから退水しなければならない。退水後は、プールに入ってはならない(4×25m マネキンリレーを除く)。</p>	<p>P.27 8. プールの使用</p> <p>(中略)</p> <p>(4) 終了の合図は<u>チーフレフリー</u>もしくはそれに準ずる者が出す。</p> <p>(5) 全ての競技において、競技者は<u>競技</u>終了後、審判員による退水の合図があるまで指定されたレーン内の水中にいないなければならない。また、競技者がプールから退水する際は、<u>指定された</u>プールサイドから退水しなければならない(タッチ板の上から退水してはならない)。ただし、リレーの場合、第1、第2、第3競技者は、それぞれの区間が終了したら、他の競技者を妨害することなく、直ちに<u>指定されたレーン</u>から退水しなければならない。退水後は、<u>再度</u>プールに入ってはならない(4×25m マネキンリレーを除く)。</p>
計 時	<p>P.80 9. 計時</p> <p>(中略)</p> <p>(2) 全自動装置による計時</p> <p>②全自動装置を使用する場合であっても、装置の故障や突発的な事故に備えて少なくとも各レーン1名のストップウォッチによる計時員を予備配置しなければならない。全自動装置</p>	<p>P.28 9. 計時</p> <p>(中略)</p> <p>(2) 全自動装置による計時</p> <p>②全自動装置を使用する場合であっても、装置の故障や突発的な事故に備えて少なくとも各レーン1名のストップウォッチによる<u>タイムキーパー</u>を予備配置しなければならない。全</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p style="text-align: center;">計 時</p> <p>(前ページの続き)</p>	<p>が作動しなかった場合は、計時員が計測した時間が採用される。</p> <p>③全自動装置の着順と時間の判定は、1/100秒までで着順を決定する。1/1000秒の位まで計測可能な場合であっても、1/1000秒の位は切り捨てる。1/100秒までが同記録の場合は同着・同順位とする。公式結果や電光掲示板の表示は1/100秒まででなくてはならない。</p> <p>④全自動装置によって判定された着順と時間は、ストップウォッチによる手動計時の判定より優先される。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 手動による計時</p> <p>①ストップウォッチによる手動計時の場合、各レーン3名の計時員によって計測した時間が採用される。</p> <p>②ストップウォッチにより計測された時間は、手動計時となる。手動計時は1/100秒までとする。</p> <p>③3台の時計のうち2台が同じで、他の1台が異なる時間を計測した場合、2台の合致した時間を公式時間とする。</p> <p>④3台の時計がそれぞれ異なる時間を計測した場合、中間の時計を計測した時計の時間を公式時間とする。</p> <p>⑤3台の時計のうち、2台だけが時計を計測した場合、その2台の平均時間を公式時間とする。</p> <p>⑥計時員の記録したタイムによる順位が、着順審判員の判定と一致しない場合は、着順審判員の決定した順位を優先する。着順問題の当該競技者のタイムは、みな同じとする。例えば、2名の競技者が関係する場合、2名のタイムは2名のタイムの合計÷2となる。</p> <p>(4) 競技者の着順は、公式時間を比較して決定される。公式時間が同じ場合は、その記録で泳いだ競技者全員が同着・同順位となる。</p>	<p>自動装置が作動しなかった場合は、<u>タイムキーパー</u>が計測した時間が採用される。</p> <p>③全自動装置の着順と<u>タイム</u>の判定は、1/100秒までで着順を決定する。1/1000秒の位まで計測可能な場合であっても、1/1000秒の位は切り捨てる。1/100秒までが同記録の場合は同着・同順位とする。公式結果や電光掲示板の表示は1/100秒まででなくてはならない。</p> <p>④全自動装置によって判定された着順と<u>タイム</u>は、ストップウォッチによる手動計時の判定より優先される。</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 手動による計時</p> <p>①ストップウォッチによる手動計時の場合、各レーン3名の<u>タイムキーパー</u>によって計測した<u>タイム</u>が採用される。</p> <p>②ストップウォッチにより計測された<u>タイム</u>は、手動計時となる。手動計時は1/100秒までとする。</p> <p>③3台の<u>ストップウォッチ</u>のうち2台が同じで、他の1台が異なる<u>タイム</u>を計測した場合、2台の合致した<u>タイム</u>を公式<u>タイム</u>とする。</p> <p>④3台の<u>ストップウォッチ</u>がそれぞれ異なる<u>タイム</u>を計測した場合、中間の<u>タイム</u>を計測した<u>ストップウォッチ</u>の<u>タイム</u>を公式<u>タイム</u>とする。</p> <p>⑤3台の<u>ストップウォッチ</u>のうち、2台だけが<u>タイム</u>を計測した場合、その2台の平均時間を公式<u>タイム</u>とする。</p> <p>⑥<u>タイムキーパー</u>の記録したタイムによる順位が、<u>フィニッシュジャッジ</u>の判定と一致しない場合は、<u>フィニッシュジャッジ</u>の決定した順位を優先する。<u>着順問題</u>の当該競技者のタイムは、みな同じとする。例えば、2名の競技者が関係する場合、2名のタイムは2名のタイムの合計÷2となる。</p> <p>(4) 競技者の着順は、公式<u>タイム</u>を比較して決定される。公式<u>タイム</u>が同じ場合は、その記録で泳いだ競技者全員が同着・同順位となる。</p>
<p style="text-align: center;">記 録</p>	<p>P.81 10. 記録</p> <p>(中略)</p>	<p>P.29 10. 記録</p> <p>(中略)</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p style="text-align: center;">記 録</p> <p style="text-align: center;">（前ページの続き）</p>	<p>(2) 公認競技会を開催するためには以下の条件を満たさなければならない。</p> <p>①競技会の公認が本協会理事会により承認されていること。</p> <p>②競技会の種目が、本協会の競技規則に則って行われること。</p> <p>③競技役員が、本協会認定審判員によって編成されていること。</p> <p>④日本水泳連盟の公認プール（50m）を使用すること。</p> <p>上記4つの要件を充たさなければ、記録の認定を受けることができない。</p> <p>(3) 記録は、審判長により、正式に発表されたものでなければならない。</p> <p>(4) 日本記録は、日本の国籍を保有した者が樹立した最高の認定記録とする。リレー種目の競技者が日本国籍でない場合は、日本記録の対象とならない。</p> <p>(5) 日本記録は、男女共、以下の種目に限られる。</p> <p>①200m障害物スイム</p> <p>②50mマネキンキャリー</p> <p>③100mレスキューメドレー</p> <p>④100mマネキンキャリー・ウィズフィン</p> <p>⑤100mマネキントウ・ウィズフィン</p> <p>⑥200mスーパーライフセーバー</p> <p>⑦ラインスロー</p> <p>⑧4×50m障害物リレー</p> <p>⑨4×25mマネキンリレー</p> <p>⑩4×50mメドレーリレー</p> <p>(6) 本協会の主催競技会においては即時認定とする。</p> <p>(7) その他、新しく日本記録が樹立されたときは、次の手続きをとらなければならない。</p> <p>（中略）</p>	<p>(2) 公認競技会を開催するためには以下の条件を満たさなければならない。</p> <p>①競技会の公認が本協会理事会により承認されていること。</p> <p>②競技会の種目が、本協会の競技規則に則って行われること。</p> <p>③競技役員が、本協会認定審判員によって編成されていること。</p> <p>④日本水泳連盟の公認プール（50m）を使用すること。</p> <p>上記4つの要件を充たさなければ、記録の認定を受けることができない。</p> <p><u>(2) 記録はチーフレフリーにより、正式に発表されたものでなければならない。</u></p> <p><u>(3) 日本記録は、日本の国籍を保有した者が樹立した最高の認定記録とする。リレー種目の競技者が日本国籍でない場合は、日本記録の対象とならない。</u></p> <p><u>(4) 日本記録は、男女共、以下の種目に限られる。</u></p> <p><u>①200m障害物スイム</u></p> <p><u>②100m 障害物スイム</u></p> <p><u>③50mマネキンキャリー</u></p> <p><u>④100mレスキューメドレー</u></p> <p><u>⑤100mマネキンキャリー・ウィズフィン</u></p> <p><u>⑥100mマネキントウ・ウィズフィン</u></p> <p><u>⑦200mスーパーライフセーバー</u></p> <p><u>⑧ラインスロー</u></p> <p><u>⑨4×25mマネキンリレー</u></p> <p><u>⑩4×50m障害物リレー</u></p> <p><u>⑪4×50mメドレーリレー</u></p> <p><u>(5) 本協会の主催競技会においては競技会終了をもって認定とする。</u></p> <p><u>(6) その他、新しく日本記録が樹立されたときは、次の手続きをとらなければならない。</u></p> <p>（中略）</p> <p><u>②国際大会においては、ILS の競技規則を採用している種目に限り記録を申請することができる。</u></p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p style="text-align: center;">記 録</p> <p style="text-align: center;">（前ページの続き）</p>	<p>②世界選手権およびワールドゲームスにおいては、その競技会の統括団体が証明する報告書をもってこれに代える。</p> <p>③本協会に申請された記録は、競技運営・審判委員会の審査・承認を経てこれを発表する。</p>	<p>③世界選手権およびワールドゲームスにおいては、その競技会の統括団体が証明する報告書をもってこれに代える。</p> <p>④本協会に申請された記録は、競技運営・審判委員会の審査・承認を経てこれを発表する。</p>

競技規則の改正点一覧表

【第3章 プール競技規則/第2節 プール競技種目】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
200m(100m) 障害物スイム	<p>P.83 (3) コース</p> <p>障害物ネットは全コースにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。最初の障害物はスタートの壁から 12.5m のところに設置し、2 番目の障害物は逆のサイドから 12.5m のところに設置する。2 つの障害物の距離は 25m とする。</p>	<p>P.31 (3) コース</p> <p>障害物ネットは全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。最初の障害物はスタートの壁から 12.5m のところに設置し、2 番目の障害物は逆のサイドから 12.5m のところに設置する。2 つの障害物の距離は 25m とする。</p>
	<p>P.83 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>④飛込後、競技者は最初の障害物の前までに、および各障害物の下を通った後、水面に浮上しなければならない。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面に浮上することを意味する。</p> <p>(中略)</p>	<p>P.31 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>④競技者は飛込後、競技者は最初の障害物の前までに、および各障害物の前と下を潜った後、および折返した後水面に浮上しなければならない。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面に浮上することを意味する。</p> <p>(中略)</p>
	<p>P.84 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②飛込んだ後、またはターンの後に浮上しなかった場合 (DQ11)。</p> <p>③障害物の上を通過し、ただちに障害物の上または下を戻り、その後下を潜り直さなかった場合 (DQ10)。</p> <p>④それぞれの障害物を潜った後に浮上しなかった場合 (DQ12)。</p> <p>⑤折返しの際壁にタッチをしなかった場合 (DQ13)。</p> <p>⑥競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。</p>	<p>P.32 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>①飛込んだ後または折返した後、障害物の下を潜る前に浮上しなかった場合 (DQ12)。</p> <p>②障害物の上を通過し、ただちに障害物の上または下を戻り、その後下を潜り直さなかった場合 (DQ11)。</p> <p>③それぞれの障害物を潜った後に浮上しなかった場合 (DQ13)。</p> <p>④折返しの際、壁にタッチをしなかった場合 (DQ14)。</p> <p>⑤競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ15)。</p>
50m マネキンキャリー	<p>P.86 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②マネキンを確保する前に水面に浮上しなかった場合 (DQ15)。</p> <p>③「マネキンの扱い方」に違反した場合 (DQ18/DQ19)。</p> <p>④マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えた時点で、正しい状態でマネキンを確保していなか</p>	<p>P.34 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>①マネキンを確保する前に水面に浮上しなかった場合 (DQ16)。</p> <p>②マネキンを正しくない方法で運んだ (キャリー) 場合 (DQ19)。</p> <p>③マネキンの顔を下向きで運んだ (キャリーまたはトウ) 場合 (DQ20)。</p> <p>④マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えた時点で、正しい状態でマネキンを正しい状態で確</p>

競技規則の改正点一覧表

【第3章 プール競技規則/第2節 プール競技種目】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
<p style="text-align: center;">50m</p> <p style="text-align: center;">マネキンキャリア</p> <p style="text-align: center;">(前ページの続き)</p>	<p>った場合 (DQ17)。</p> <p>⑤マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合 (DQ16)。</p> <p>⑥ゴールの壁にタッチする前に、マネキンを放した場合 (DQ20)。</p> <p>⑦競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。</p>	<p>保していなかった場合 <u>(DQ18)</u>。</p> <p>⑤マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合。<u>ただし、プールの底は含まれない (DQ17)</u>。</p> <p>⑥ゴールの壁<u>および折返し</u>の壁にタッチする前に、マネキンを放した場合 <u>(DQ21)</u>。</p> <p>⑦競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 <u>(DQ15)</u>。</p>
<p style="text-align: center;">100m</p> <p style="text-align: center;">レスキューメドレー</p>	<p>P.88 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②「マネキンの扱い方」に違反した場合 (DQ18/DQ19)。</p> <p>③折返し後、マネキンを引き上げる前に水面に浮上した場合 (DQ21)。</p> <p>④折返しの壁から足が離れた後、マネキンを引き上げる前に呼吸した場合 (DQ22)。</p> <p>⑤マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えた時点で、正しい状態でマネキンを確保していなかった場合 (DQ17)。</p> <p>⑥マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合 (DQ16)。</p> <p>⑦ゴールの壁にタッチする前に、マネキンを放した場合 (DQ20)。</p> <p>⑧競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。</p>	<p>P.36 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①マネキンを正しくない方法で運んだ (キャリア) 場合 (DQ19)。</u></p> <p><u>②マネキンの顔を下向きで運んだ (キャリアまたはトウ) 場合 (DQ20)。</u></p> <p>③折返し後、マネキンを引き上げる前に<u>水面</u>に浮上した場合 <u>(DQ22)</u>。</p> <p>④折返しの壁から足が離れた後、マネキンを引き上げる前に呼吸した場合 (DQ22)。</p> <p>④マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えた時点で、<u>正しい状態</u>でマネキンを<u>正しい状態</u>で確保していなかった場合 <u>(DQ18)</u>。</p> <p>⑤マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合。<u>ただし、プールの底は含まれない (DQ17)</u>。</p> <p>⑥ゴールの壁<u>および折返し</u>の壁にタッチする前に、マネキンを放した場合 <u>(DQ21)</u>。</p> <p>⑦競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 <u>(DQ15)</u>。</p>
<p style="text-align: center;">100m</p> <p style="text-align: center;">マネキンキャリア</p> <p style="text-align: center;">・ウィズフィン</p>	<p>P.89 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>③スタート後にフィンを落としてしまった場合は、競技者はフィンを取り戻すかまたはフィンなしで競技を継続することができる。</p> <p>(中略)</p> <p>P.89 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p>	<p>P.37 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>③スタート後にフィンを落としてしまった場合は、競技者はフィンを<u>回収するか</u>またはフィンなしで競技を継続することができる。<u>フィンを回収する場合、マネキンの扱い方に違反していない限り競技を継続することができる。ただし、再レースを行なうことはできない。</u></p> <p>(中略)</p> <p>P.37 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p style="text-align: center;">100m マネキンキャリア ・ウィズフィン (前ページの続き)</p>	<p>③スタート後にフィンを下としてしまった場合は、競技者はフィンを取り戻すかまたはフィンなしで競技を継続することができる。</p> <p>(中略)</p>	<p>③スタート後にフィンを下としてしまった場合は、競技者はフィンを<u>回収するか</u>またはフィンなしで競技を継続することができる。<u>フィンを回収する場合、マネキンの扱い方に違反していない限り競技を継続することができる。ただし、再レースを行なうことはできない。</u></p> <p>(中略)</p>
	<p>P.90 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②「マネキンの扱い方」に違反した場合 (DQ18/DQ19)。</p> <p>③マネキンの頭頂部が 10m ラインを通過する前に、マネキンを正しいキャリアポジションで確保していない場合 (DQ23)。</p> <p>④マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合 (DQ16)。</p> <p>⑤ゴールの壁にタッチする前に、マネキンを放した場合 (DQ20)。</p> <p>⑥競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。</p>	<p>P.38 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①マネキンを正しくない方法で運んだ (キャリア) 場合 (DQ19)。</u></p> <p><u>②マネキンの顔を下向きで運んだ (キャリアまたはトウ) 場合 (DQ20)。</u></p> <p>③マネキンの頭頂部が 10m ラインを通過する前に、<u>正しい状態で</u>マネキンを正しいキャリア<u>ポジション</u>で確保していない場合 (DQ23)。</p> <p>④マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合。<u>ただし、プールの底は含まれない (DQ17)。</u></p> <p>⑤ゴールの壁<u>および折返しの壁</u>にタッチする前に、マネキンを放した場合 <u>(DQ21)。</u></p> <p>⑥競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 <u>(DQ15)。</u></p>
<p style="text-align: center;">100m マネキントウ ・ウィズフィン</p>	<p>P.91 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>④折返しの壁をタッチした後、競技者はプールの壁から 5m 以内でマネキンの両腕の下にレスキューチューブをつけ、… (略)</p> <p>(中略)</p> <p>⑧スタート後にフィンを下としてしまった場合は、競技者はフィンを取り戻すかまたはフィンなしで競技を継続することができる。</p> <p>(中略)</p> <p>⑩ゴールは競技者がレスキューチューブにマネキンが巻かれた状態で、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチすること。</p>	<p>P.39 (4) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p><u>④競技者は、</u>折返しの壁をタッチした後、<u>競技者は</u>プールの壁から 5m 以内でマネキンの両腕の下にレスキューチューブをつけ、… (略)</p> <p>(中略)</p> <p>⑧スタート後にフィンを下としてしまった場合は、競技者はフィンを<u>回収するか</u>またはフィンなしで競技を継続することができる。<u>フィンを回収する場合、マネキンの扱い方に違反していない限り競技を継続することができる。ただし、再レースを行なうことはできない。</u></p> <p>(中略)</p> <p>⑩ゴールは、<u>競技者が</u>レスキューチューブにマネキンが巻かれた状態で、<u>競技者が</u>はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチすること。</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p>100m マネキントウ ・ウィズフィン (前ページの続き)</p>	<p>P.92 (5) 失格 (中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②「マネキンの扱い方」に違反した場合 (DQ19)。</p> <p>③競技者が折返しの壁にタッチした後、マネキン・ハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合 (DQ27)。</p> <p>④マネキン・ハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合、または競技者が折返しの壁をタッチした後、マネキン・ハンドラーが再度マネキンを触った場合 (DQ25)。</p> <p>⑤マネキン・ハンドラーが競技中、故意にプールに入った場合、プールに入り他の競技者を妨害した場合または競技の判定を妨害した場合 (DQ29)。</p> <p>⑥50m地点で壁にタッチする前にマネキンに触れた場合 (DQ26)。</p> <p>⑦レスキューチューブをマネキンに正しくつけなかった場合 (マネキンの両腕の下の周りでない場所や、クリップをオーリングにかけていないなど) (DQ30)。</p> <p>⑧マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えるまでに、マネキンの両腕の下に正しくレスキューチューブが固定されていなかった場合 (DQ31)。</p> <p>⑨マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた時点で、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされていない場合 (DQ33)。</p> <p>⑩マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた後、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされた状態でマネキンを引っ張っていない場合 (ただし、マネキンを再度固定するために競技者が停止した場合を除く) (DQ34)。</p> <p>⑪マネキンを引っ張る代わりに、押したり、抱えたりした場合 (DQ32)。</p> <p>⑫レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品を補助として用いた場合 (DQ24)。</p> <p>⑬レスキューチューブがマネキンに正しく固定された後、外れた場合 (DQ35)。</p>	<p>P.40 (5) 失格 (中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①マネキンの顔を下向きで運んだ (キャリアまたはトウ) 場合 (DQ20)。</u></p> <p>②競技者が折返しの壁にタッチした後、マネキン・ハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合 (DQ27)。</p> <p>③マネキン・ハンドラーがマネキンを正しく保持していなかった場合、または競技者が折返しの壁をタッチした後、マネキン・ハンドラーが再度マネキンを触った場合 (DQ25)。</p> <p>④マネキン・ハンドラーが競技中故意にプールに入った場合、プールに入り他の競技者を妨害した場合または競技の判定を妨害した場合 (DQ29)。</p> <p><u>⑤競技者が折返しの壁にタッチする前に、レスキューチューブのクリップをオーリングにかけた場合 (DQ30)。</u></p> <p>⑥50m / <u>150m</u> 地点で壁にタッチする前にマネキンに触れた場合 (DQ26)。</p> <p>⑦レスキューチューブをマネキンに正しくつけなかった場合 (マネキンの両腕の下の周りでない場所や、クリップをオーリングにかけていないなど) <u>(DQ31)。</u></p> <p>⑧マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えるまでに、マネキンの両腕の下に正しくレスキューチューブが固定されていなかった場合 <u>(DQ32)。</u></p> <p>⑨マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた時点で、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされていない場合 <u>(DQ34)。</u></p> <p>⑩マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた後、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされた状態でマネキンを引っ張っていない場合 (ただし、マネキンを再度固定するために競技者が停止した場合を除く) <u>(DQ35)。</u></p> <p>⑪マネキンを引っ張る代わりに押したり、抱えたりした場合 <u>(DQ33)。</u></p> <p>⑫レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品 <u>(レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等)</u> を補助として用いた場合 (DQ24)。</p> <p>⑬レスキューチューブがマネキンに正しく固定された後、外れた場合 <u>(DQ36)。</u></p>

競技規則の改正点一覧表

【第3章 プール競技規則／第2節 プール競技種目】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
100m マネキントウ ・ウィズフィン （前ページの続き）	<p>⑭レスキューチューブとマネキンが正しい位置にない状態でゴールの壁をタッチした場合（DQ36）。</p> <p>⑮競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合（DQ14）。</p> <p>（中略）</p>	<p>⑭レスキューチューブとマネキンが正しい位置にない状態でゴールの壁をタッチした場合（<u>DQ37</u>）。</p> <p>⑮競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合（<u>DQ15</u>）。</p> <p>（中略）</p>
200m スーパー ライフセーバー	<p>P.95 (4) 競技の方法</p> <p>（中略）</p> <p>⑥競技者が 150m 地点の折返しの壁をタッチした後、直ちにハンドラーはマネキンを放す。その際、ハンドラーは競技者やゴールの壁の方向へマネキンを押してはならない。</p> <p>⑦競技者は 150m地点の壁にタッチした後、競技者はプールの壁から 5m以内でレスキューチューブをマネキンの体に巻き、両腕の下にしっかりと固定し、クリップをオーリングにかけて正しく固定し、マネキンの顔が水面で上を向いた状態でゴールまでそれを引っ張る。</p> <p>（中略）</p> <p>⑩スタート後にフィンを落としてしまった場合は、競技者はフィンを取り戻すかまたはフィンなしで競技を継続することができる。</p> <p>（中略）</p> <p>⑭ゴールは競技者がレスキューチューブにマネキンが巻かれた状態で、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチすること。</p>	<p>P.43 (4) 競技の方法</p> <p>（中略）</p> <p>⑥競技者が 150m 地点の折返しの壁をタッチした後、直ちにマネキン・ハンドラーはマネキンを放す。その際、マネキン・ハンドラーは競技者やゴールの壁の方向へマネキンを押してはならない。</p> <p>⑦競技者は 150m地点の壁にタッチした後、競技者はプールの壁から 5m以内でレスキューチューブをマネキンの体に巻き、両腕の下にしっかりと固定し、クリップをオーリングにかけて正しく固定し、マネキンの顔が水面で上を向いた状態でゴールまでそれを引っ張る。</p> <p>（中略）</p> <p>⑩スタート後にフィンを落としてしまった場合は、競技者はフィンを回収するかまたはフィンなしで競技を継続することができる。<u>フィンを回収する場合、マネキンの扱い方に違反していない限り競技を継続することができる。ただし、再レースを行なうことはできない。</u></p> <p>（中略）</p> <p>⑭ゴールは、競技者がレスキューチューブにマネキンが巻かれた状態で、競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチすること。</p>
	<p>P.96 (5) 失格</p> <p>（中略）</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②「マネキンの扱い方」に違反した場合（DQ18/DQ19）。</p> <p>③マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えた時点で、正しい状態でマネキンを確保していな</p>	<p>P.44 (5) 失格</p> <p>（中略）</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①マネキンを正しくない方法で運んだ（キャリア）場合（DQ19）。</u></p> <p><u>②マネキンの顔を下向きで運んだ（キャリアまたはトウ）場合（DQ20）。</u></p> <p>③マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えた時点で、正しい状態でマネキンを<u>正しい状態で確</u></p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p style="text-align: center;">200m スーパー ライフセーバー (前ページの続き)</p>	<p>った場合 (DQ17)。</p> <p>④競技者が折返しの壁にタッチした後、マネキン・ハンドラーがただちにマネキンを放さなかった場合 (DQ27)。</p> <p>(中略)</p> <p>⑧150m地点で壁にタッチする前にマネキンに触れた場合 (DQ26)。</p> <p>⑨レスキューチューブをマネキンに正しくつけないかった場合 (マネキンの両腕の下の周りでない場所や、クリップをオーリングにかけていないなど) (DQ30)。</p> <p>⑩マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えるまでに、マネキンの両腕の下に正しくレスキューチューブが固定されていなかった場合 (DQ31)。</p> <p>⑪マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた時点で、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされていない場合 (DQ33)。</p> <p>⑫マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた後、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされた状態でマネキンを引っ張っていない場合 (ただし、マネキンを再度固定するために競技者が停止した場合を除く) (DQ34)。</p> <p>⑬マネキンを引っ張る代わりに、押したり抱えたりした場合 (DQ32)。</p> <p>⑭レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、レーンローブを握ったり、引っ張った場合 (DQ24)。</p> <p>⑮レスキューチューブがマネキンに正しく固定された後、外れた場合 (DQ35)。</p> <p>⑯レスキューチューブとマネキンが正しい位置にない状態でゴールの壁をタッチした場合 (DQ36)。</p> <p>⑰競技者が、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。</p> <p>⑱マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンローブ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合 (DQ16)。</p>	<p>保していなかった場合 (DQ18)。</p> <p>④競技者が折返しの壁にタッチした後、<u>ただちに</u>マネキン・ハンドラーが<u>ただちに</u>マネキンを放さなかった場合 (DQ27)。</p> <p>(中略)</p> <p>⑧<u>50m/150m</u>地点で壁にタッチする前にマネキンに触れた場合 (DQ26)。</p> <p>⑨<u>折返しの壁およびゴールの壁にタッチする前にマネキンを離した場合 (DQ21)。</u></p> <p>⑩レスキューチューブをマネキンに正しくつけないかった場合 (マネキンの両腕の下の周りでない場所や、クリップをオーリングにかけていないなど) (DQ31)。</p> <p>⑪マネキンの頭頂部が 5m ラインを越えるまでに、マネキンの両腕の下に正しくレスキューチューブが固定されていなかった場合 (DQ32)。</p> <p>⑫マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた時点で、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされていない場合 (DQ34)。</p> <p>⑬マネキンの頭頂部が 10m ラインを越えた後、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされた状態でマネキンを引っ張っていない場合 (ただし、マネキンを再度固定するために競技者が停止した場合を除く) (DQ35)。</p> <p>⑭マネキンを引っ張る代わりに押ししたり抱えたりした場合 (DQ33)。</p> <p>⑮レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、<u>プールの付属品 (レーンローブ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合 (DQ24)。</u></p> <p>⑯レスキューチューブがマネキンに正しく固定された後、外れた場合 (DQ36)。</p> <p>⑰レスキューチューブとマネキンが正しい位置にない状態でゴールの壁をタッチした場合 (DQ37)。</p> <p>⑱競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ15)。</p> <p>⑲マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンローブ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合。<u>ただし、プールの底は含まれない (DQ17)。</u></p> <p>⑳競技者が折返しの壁にタッチする前に、<u>レスキューチューブのクリップをオーリングにか</u> <u>けた場合 (DQ30)。</u></p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
ラインスロー	P.98 7. ラインスロー	P.46 7. 12.5m ラインスロー
	P.98 (1) 競技人数 2名	P.46 (1) 競技人数 2名 <u>(救助者1名 溺者役および傷病者役1名)</u>
	P.98 (2) 使用器材 スローラインの長さは16.5mから17.5mとする。競技者は、主催者によって用意されたスローラインを使う。	P.46 (2) 使用器材 スローラインの長さは 16.5mから17.5m とする。競技者は、主催者によって用意されたスローラインを使う。
	P.98 (3) コース ①クロスバーの位置 固定されたクロスバーはスタートする側のプールの端から12.5mの地点の水面に各レーンに垂直に置かれる。クロスバーの中央に溺者役および傷病者役が待機するための印（マーク）を付ける。 (中略)	P.46 (3) コース ①クロスバーの位置 固定されたクロスバーはスタートする側のプールの端から12.5mの地点の水面に各レーンに垂直に置かれる。 クロスバーの中央に溺者役および傷病者役が待機するための印（マーク）を付ける。 (中略)
	P.98 (4) 競技の方法 ①練習は認められない。 ②救助者は、スターターの1回目の長いホイッスルでスローゾーンに入る。救助者は、スローラインの一方の端を持つ。溺者役および傷病者役は、スローラインを持ってプールに入り、余りのスローラインは、クロスバーの上を通して伸ばしておく。溺者役および傷病者役は、ゴーグルを装着することができる。 ③競技者は、2回目のホイッスルで、遅れのないようにスタートの位置をとる。 (中略) ⑤スタートの姿勢 救助者は、溺者役および傷病者役が正面となるように向かい合ってスローゾーン内に立ち、“気をつけ”の姿勢（両脚を揃え、両腕をまっすぐに伸ばして体側につける）でスローラインの端を片手で持ち、静止する。溺者役および傷病者役は、クロスバーの救助者側でコース中央の水中に位置し、スタート前にクロスバーの指定されたマークとスローラインの両方を掴み（片手または両手）、静止する。	P.46 (4) 競技の方法 ① 投げる 練習は認められない。 ②救助者は、スターターの1回目の長いホイッスルで救助者はスローゾーンに入り、救助者は、 スローラインの一方の端を持つ 。溺者役および傷病者役はスローラインを持ってプールに入り、余りのスローラインはクロスバーの上を通して伸ばしておく。 溺者役および傷病者役は、ゴーグルを装着することができる。 ③競技者は、 2 回目のホイッスルで、 競技者は 遅れのないようにスタートの位置に 着く 。 (中略) ⑤スタートの姿勢 救助者は、溺者役および傷病者役が正面となるように向かい合ってスローゾーン内に立ち、“気をつけ”の姿勢（両脚を揃え、両腕をまっすぐに伸ばして体側につける）でスローラインの端を片手で持ち静止する。溺者役および傷病者役は、クロスバーの救助者側で コース中央の水中に位置し、スタート前にクロスバーの指定されたマークとスローラインの両方を 掴み（片手または両手）、静止する。

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
ラインスロー (前ページの続き)	<p>(中略)</p> <p>⑧溺者役および傷病者役は、スローラインが自分のレーン内(空中を含む)にあり、かつクロスバーから手を離さなくても届く場合のみ、スローラインを掴むことができる。ただし、レーンロープは自分のレーンには含まれない。また、溺者役および傷病者役はスローラインを掴むために、水中に潜ってもよい。溺者役および傷病者役は、スローラインを一方の手で掴む前に、クロスバーの指定されたマークから他方の手を離してはならない。</p> <p>⑨溺者役および傷病者役は、完全に自分のレーンに留まり、クロスバーの指定されたマークから手を離さない限り、足、その他の身体の部分を使ってスローラインを両手で掴めるように調整してよい。</p> <p>(中略)</p> <p>⑩救助者は、制限時間の45秒以内に、スローラインを正しく投げ、溺者役および傷病者役をプールの壁まで引っ張ってこなければならない。投げたスローラインが届かなかつたり、決められたコースの外に落ちた場合、救助者は45秒以内であればスローラインを回収し、何回でも投げ返すことができる。制限時間内に終了できなければ「終了しなかった」(DNF = Did Not Finish)となる。</p>	<p>(中略)</p> <p>⑧溺者役および傷病者役は、スローラインが自分のレーン内(空中を含む)にあり、かつクロスバーから手を離さなくても届く場合のみ、スローラインを掴むことができる。ただし、レーンロープは自分のレーンには含まれない。また、溺者役および傷病者役はスローラインを掴むために、水中に潜ってもよい。溺者役および傷病者役は、スローラインを一方の手で掴む前に、クロスバーの<u>指定されたマーク</u>から他方の手を離してはならない。</p> <p>⑨溺者役および傷病者役は完全に自分のレーンに留まり、クロスバーの<u>指定されたマーク</u>から手を離さない限り、足その他の身体の部分を使ってスローラインを両手で掴めるように調整してよい。</p> <p>(中略)</p> <p>⑩救助者は、制限時間の45秒以内に、スローラインを正しく投げ、溺者役および傷病者役をプールの壁まで引っ張ってこなければならない。投げたスローラインが届かなかつたり、決められた<u>レーン</u>の外に落ちた場合、救助者は45秒以内であればスローラインを回収し、何回でも投げ返すことができる。制限時間内に終了できなければ「終了しなかった」(DNF = Did Not Finish)となる。</p>
	<p>P.100 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②溺者役および傷病者役の手がスローラインを掴む前に、クロスバーの指定されたマークから離れた場合 (DQ51)。</p> <p>③溺者役および傷病者役が、自分のレーンの外にあるスローラインを掴んだ場合 (DQ54)。</p> <p>④溺者役および傷病者役が、ゴールの壁まで引っ張られている間、前を向いていなかった場合 (DQ55)。</p> <p>⑤溺者役および傷病者役が、ゴールの壁まで引っ張られている間、両手でスローラインを掴んでいない場合(壁にタッチするために一方の手をスローラインから放すことは認められる) (DQ56)。</p>	<p>P.48 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>①溺者役および傷病者役の手がスローラインを掴む前に、クロスバーの指定されたマークから離れた場合 (DQ51)。</p> <p>②溺者役および傷病者役が自分のレーンの外にあるスローラインを掴んだ場合 (DQ54)。</p> <p>③溺者役および傷病者役がゴールの壁まで引っ張られている間、前を向いていなかった場合 (DQ55)。</p> <p>④溺者役および傷病者役がゴールの壁まで引っ張られている間、両手でスローラインを掴んでいない場合(壁にタッチするために一方の手をスローラインから放すことは認められる) (DQ56)。</p>

競技規則の改正点一覧表

【第3章 プール競技規則／第2節 プール競技種目】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
ラインスロー （前ページの続き）	⑥溺者役および傷病者役が引っ張られている間、スローラインを手繰り寄せた場合（DQ57）。 ⑦救助者が、スタートの合図から競技終了の合図の間に、スローゾーンから出た場合（両足で判断）（DQ52）。 ⑧溺者役および傷病者役が、45秒の競技終了の合図の前に、水中から出た場合（DQ53）。 ⑨救助者が、投げる練習をした場合（DQ58）。 ⑩溺者役および傷病者役がはっきりと見えるようにゴールの壁をタッチしなかった場合（DQ14）。	⑤溺者役および傷病者役が引っ張られている間、スローラインを手繰り寄せた場合（DQ57）。 ⑥救助者がスタートの合図から競技終了の合図の間に、スローゾーンから出た場合（両足で判断）（DQ52）。 ⑦溺者役および傷病者役が45秒の競技終了の合図の前に、水中から出た場合（DQ53）。 ⑧救助者が投げる練習をした場合（DQ58）。 ⑨競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁をタッチしなかった場合（DQ15）。
4×25m マネキンリレー	P.104 9. 4×25m マネキンリレー P.104 (3) コース スタートゾーンとチェンジオーバーゾーンは、次のようにそれぞれ2つの目印（旗など）を置いて示される（スタートゾーンは両方の壁から5m、プール中央のチェンジオーバーゾーンはスタートの壁から23mと27m）。 P.104 (4) 競技の方法 （中略） ②第1競技者は、一方の手にマネキンを水面に保持し、もう一方の手をプールの端壁またはスターティンググリップを掴み、水中からスタートする。スタートの合図で、競技者はマネキン運び、プールの23m地点から27m地点の目印の間4mのチェンジオーバーゾーン内で第2競技者に手渡す。 （中略） ⑤第3競技者はマネキン運び、73m地点から77m地点の旗の間にあるチェンジオーバーゾーン内で第4競技者にマネキンを手渡す。 ⑥第4競技者はマネキン運び、競技者の体のいずれかの部分でゴールの壁をタッチすることで、競技終了となる。 ⑦競技者は、審判が競技終了の合図を出すまで水中に留まっていなければならない。	P.50 8. 4×25m マネキンリレー P.50 (3) コース スタート／ゴールゾーンとチェンジオーバーゾーンは、次のようにそれぞれ2つの目印（旗など）を置いて示される（スタートゾーンはスタートの壁から5m、プール中央のチェンジオーバーゾーンはスタートの壁から23mと27mの間および折返しの壁から5m、ゴールゾーンはゴールの壁から5m）。 P.50 (4) 競技の方法 （中略） ②第1競技者は、一方の手で水面にマネキンを水面に保持し、もう一方の手でプールの端壁またはスターティンググリップを掴み、水中からスタートする。スタートの合図で、競技者はマネキン運び、プールの23m地点から27m地点の目印の間4mのチェンジオーバーゾーン内で第2競技者に手渡す。 （中略） ⑤第3競技者はマネキン運び、73m地点から77m地点の旗の間にあるチェンジオーバーゾーン内で第4競技者にマネキンを手渡す。 ⑥第4競技者はマネキン運び、競技者の身体のいずれかの部分でゴールの壁をタッチすることで競技終了となる。ゴールゾーン内では「マネキン運び（キャリー）場合」の規則は適用される。 ⑦競技者は、審判員が競技終了の合図を出すまで指定されたレーン内の水中に留まっていな

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p style="text-align: center;">4×25m マネキンリレー (前ページの続き)</p>	<p>(中略)</p> <p>⑨マネキンの手渡しに参加できるのは、マネキンを運んでいる競技者と、マネキンを受け取る競技者のみである。マネキンを運んでいる競技者は、マネキンの頭部がチェンジオーバーゾーン内にある限り、マネキンを受け取る競技者を補助してもよい。</p> <p>(中略)</p> <p>⑩競技者は、チェンジオーバーゾーン内でプールの底をけてもよい。</p> <p>⑪第1競技者と第3競技者のスタートゾーン、およびチェンジオーバーゾーン内では、「マネキンを運ぶ(キャリア)場合」の規則は適用されない。スタートゾーンおよびチェンジオーバーゾーン内とは、マネキンの頭頂部がゾーンに入ってからゾーンを越える前までとする。</p>	<p>なければならない。</p> <p>(中略)</p> <p>⑨マネキンの手渡しに参加できるのは、マネキンを運んでいる競技者と、マネキンを受け取る競技者のみである。マネキンを運んでいる競技者は、マネキンの頭頂部がチェンジオーバーゾーン内にある限り、マネキンを受け取る競技者を補助してもよい。</p> <p>(中略)</p> <p>⑩競技者は、チェンジオーバーゾーン内でプールの底を蹴ってもよい。</p> <p>⑪第1競技者と第3競技者のスタートゾーンおよびチェンジオーバーゾーン内では、「マネキンを運ぶ(キャリア)場合」の規則は適用されない。スタートゾーンおよびチェンジオーバーゾーン内とは、マネキンの頭頂部がゾーンに入ってからゾーンを越える前までとする。</p>
	<p>P.105 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②「マネキンの扱い方」に違反した場合 (DQ18/DQ19)。</p> <p>③マネキンの受け渡し方について</p> <p>(ア) マネキンが指定されたチェンジオーバーゾーンの外で受け渡された場合 (DQ41)。</p> <p>(イ) 第2競技者が折返しの際に壁にタッチする前に第3競技者がマネキンを受けとった場合 (DQ41)。</p> <p>④前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 (DQ40)。</p> <p>⑤マネキンを運んでいる競技者と次にマネキンを受け取る競技者以外の競技者が、チェンジオーバーのために助力を与えた場合 (DQ38)。</p> <p>⑥次の競技者がマネキンを掴む前に、競技者がマネキンを放した場合 (一方の手がいつもマネキンに触れていない場合) (DQ42)。</p> <p>⑦マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品を補助として用いた場合 (DQ16)。</p>	<p>P.51 (5) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①マネキンを正しくない方法で運んだ(キャリア)場合 (DQ19)。</u></p> <p><u>②マネキンの顔を下向きで運んだ(キャリアまたはトウ)場合 (DQ20)。</u></p> <p><u>③マネキンの受け渡し方について</u></p> <p>(ア) ③マネキンが指定されたチェンジオーバーゾーンの外で受け渡された場合 (DQ42)。</p> <p>(イ) ④第2競技者が折返しの際に壁にタッチする前に第3競技者がマネキンを受けとった場合 (DQ42)。</p> <p><u>⑤前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 (DQ41)。</u></p> <p><u>⑥マネキンを運んでいる競技者と次にマネキンを受け取る競技者以外の競技者が、チェンジオーバーのために助力を与えた場合 (DQ39)。</u></p> <p><u>⑦次の競技者がマネキンを掴む前に、競技者がマネキンを放した場合 (一方の手がいつもマネキンに触れていない) (DQ43)。</u></p> <p><u>⑧マネキンを確保して水面に浮上する際、プールの付属品 (レーンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等) を補助として用いた場合。ただし、プールの底は含まれない (DQ17)。</u></p>

競技規則の改正点一覧表

【第3章 プール競技規則／第2節 プール競技種目】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
4×25m マネキンリレー (前ページの続き)	⑧折返しの壁または、ゴールの壁にタッチする前にマネキンを放した場合 (DQ37)。 ⑨競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。 ⑩1人の競技者が、2つまたはそれ以上の区間に出場した場合 (DQ39)。	⑨折返しの壁または、ゴールの壁にタッチする前にマネキンを放した場合 (DQ38)。 ⑩競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ15)。 ⑪1人の競技者が、2つまたはそれ以上の区間に出場した場合 (DQ40)。
4×50m 障害物リレー	P.102 8. 4×50m 障害物リレー	P.53 9. 4×50m 障害物リレー
	P.102 (2) 使用器材 なし	P.53 (2) 使用器材 障害物
	P.102 (3) コース 用具の位置 障害物ネットは全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。最初の障害物はスタートの壁から 12.5m のところに設置し、2番目の障害物は逆のサイドから 12.5m のところに設置する。2つの障害物の距離は 25m とする。	P.53 (3) コース 用具の位置 障害物ネットは全レーンにまたがってまっすぐな線を描くようにレーンロープと垂直に固定する。最初の障害物はスタートの壁から 12.5m 地点に設置し、2番目の障害物は逆のサイドから 12.5m 地点に設置する。2つの障害物の距離は 25m とする。
	P.102 (4) 競技の方法 (中略) ③第2から第4競技者まで第1競技者と同じ手順で競技を行う。 (中略) ⑤飛込後、競技者は最初の障害物の前までに、および各障害物の下を通った後水面に浮上しなければならない。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面に浮上することを意味する。 (中略) ⑧第1競技者および第2競技者は、自分の区間を終了したら、他の競技者を妨害することなくプールから上がらなくてはならない。第1、第2、第3競技者は、再度プールに入ってはならない。	P.53 (4) 競技の方法 (中略) ③第2競技者から第4競技者まで第1競技者と同じ手順で競技を行なう。 (中略) ⑤飛込後、競技者は最初の障害物の前までに、および各障害物の下を潜った後水面に浮上しなければならない。「水面に浮上する」とは競技者の頭が水面に浮上することを意味する。 (中略) ⑧第1、第2、第3競技者は、それぞれの区間を終了したら、他の競技者を妨害することなく、直ちに指定されたレーンから退水しなければならない。退水後は、再度プールに入ってはならない。
	P.103 (5) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 ②各競技者が、飛込スタートの後、水面に浮上しなかった場合 (DQ11)。 ③障害物の上を通過し、ただちに障害物の上または下を戻り、その後下を潜り直さなかった	P.54 (5) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 ①飛込んだ後または折返した後、障害物の下を潜る前に浮上しなかった場合 (DQ12)。 ②障害物の上を通過し、ただちに障害物の上または下を戻り、その後下を潜り直さなかった

競技規則の改正点一覧表

【第3章 プール競技規則/第2節 プール競技種目】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
<p style="text-align: center;">4×50m 障害物リレー (前ページの続き)</p>	<p>場合 (DQ10)。</p> <p>④それぞれの障害物を潜った後に浮上しなかった場合 (DQ12)。</p> <p>⑤前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 (DQ40)。</p> <p>⑥第1、第2競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3競技者がスタートした場合 (DQ43)。</p> <p>⑦第4競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 (DQ14)。</p> <p>⑧1人の競技者が、2つまたはそれ以上の区間に出場した場合 (DQ39)。</p> <p>⑨競技者が、自分の区間を終了した後に再度プールに入った場合 (DQ50)。</p>	<p>場合 <u>(DQ11)</u>。</p> <p><u>③</u>それぞれの障害物を潜った後に浮上しなかった場合 <u>(DQ13)</u>。</p> <p><u>④</u>前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 <u>(DQ41)</u>。</p> <p><u>⑥</u>第1、第2競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3競技者がスタートした場合 <u>(DQ43)</u>。</p> <p><u>⑤</u>第4競技者がはっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 <u>(DQ15)</u>。</p> <p><u>⑥</u>1人の競技者が、2つまたはそれ以上の区間に出場した場合 <u>(DQ40)</u>。</p> <p><u>⑦</u>競技者が、自分の区間を終了した後に再度プールに入った場合 (DQ50)。</p>
<p style="text-align: center;">4×50m メドレーリレー</p>	<p>P.107 (4) 競技の方法 (中略)</p> <p>⑩スタート後にフィンを下としてしまった場合は、競技者はフィンを回収するか、またはフィンなしで競技を続けることができる。</p> <p>P.108 (5) 失格 (中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>②第1、第2競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3競技者が、スタートした場合 (DQ43)。</p> <p>③第3競技者が折返しの壁にタッチする前に、第4競技者がプールの端壁やスターティンググリップから離れた場合 (DQ45)。</p> <p>④第3競技者(溺者役)が折返しの壁にタッチする前に第4競技者がレスキューチューブ(肩掛け部分、紐、その他全ての部分を含む)を触った場合 (DQ44)。</p> <p>⑤第3競技者(溺者役)が、腕を動かして協力したり、またはレスキューチューブを両手で掴んでいない場合 (DQ47)。</p> <p>⑥第3競技者(溺者役)が5mラインを越えた後、レスキューチューブの本体を掴まずに紐やクリップを掴んでいる場合 (DQ46)。</p>	<p>P.55 (4) 競技の方法 (中略)</p> <p>⑩スタート後にフィンを下としてしまった場合は、競技者はフィンを回収するか、またはフィンなしで競技を続けることができる。ただし、再レースを行なうことはできない。</p> <p>P.56 (5) 失格 (中略)</p> <p><u>①種目別の競技規則に違反した場合。</u></p> <p><u>②</u>第1、第2競技者が、それぞれ折返しの壁にタッチする前に第2、第3競技者が、スタートした場合 <u>(DQ43)</u>。</p> <p><u>③</u>第3競技者が折返しの壁にタッチする前に、第4競技者がプールの端壁やスターティンググリップから離れた場合 <u>(DQ45)</u>。</p> <p><u>①</u>第3競技者(溺者役)が折返しの壁にタッチする前に第4競技者がレスキューチューブ(肩掛け部分、紐、その他全ての部分を含む)を触った場合 (DQ44)。</p> <p><u>②</u>競技者がレスキューチューブのクリップをオーリングにかけた場合 <u>(DQ45)</u>。</p> <p><u>③</u>第3競技者(溺者役)が腕を動かして協力したり、またはレスキューチューブを両手で掴んでいない場合 (DQ47)。</p> <p><u>④</u>第3競技者(溺者役)が5mラインを越えた後、レスキューチューブの本体を掴まずに紐やクリップを掴んでいる場合 (DQ46)。</p>

競技規則の改正点一覧表 **【第3章 プール競技規則／第2節 プール競技種目】**

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
4×50m メドレーリレー （前ページの続き）	⑦5m ラインを越えた後に、第3 競技者（溺者役）がレスキューチューブを放してしまった場合（DQ48）。 ⑧第4 競技者が 10m ラインを越えた後、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされた状態で、第3 競技者（溺者役）を引っ張っていなかった場合（DQ49）。 ⑨第4 競技者が、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合（DQ14）。 ⑩1 人の競技者が、2 つまたはそれ以上の区間に出場した場合（DQ39）。 ⑪競技者が、自分の区間を終了した後に、再度プールに入った場合（DQ50）。 ⑫前の競技者が、壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合（DQ40）。	⑤5m ラインを越えた後に、第3 競技者 （溺者役） がレスキューチューブを放してしまった場合（DQ48）。 ⑥第4 競技者が 10m ラインを越えた後、レスキューチューブの紐が十分に伸ばされた状態で、第3 競技者 （溺者役） を引っ張っていなかった場合（DQ49）。 ⑦ 第4 競技者が、はっきりと見えるようにゴールの壁にタッチしなかった場合 <u>（DQ15）</u> 。 ⑧1 人の競技者が、2 つまたはそれ以上の区間に出場した場合 <u>（DQ40）</u> 。 ⑨競技者が、自分の区間を終了した後に再度プールに入った場合（DQ50）。 ⑩前の競技者が壁にタッチする前に次の競技者がスタートした場合 <u>（DQ41）</u> 。
プール競技 失格コード表	P.146～ 失格コード表 （割愛）	P.58～ プール競技失格コード表 ※2016 年版より、オーシャン競技・プール競技・SERC のそれぞれに、各競技失格コード表が設けられた。全競技共通ではなくなった為、必ず確認をお願いします。

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
組み合わせ およびコース	<p>P.20 1. 組み合わせおよびコース</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 全てのコースは、競技運営・審判委員会、審判長または競技別審判長の判断で決定され、距離を測定し一列に整列するように設置し、… (略)</p> <p>(中略)</p> <p>(5) 競技運営・審判委員会および審判長は、競技者が競技規則に違反していないこと、公平に競技が行われていることなど環境や安全に考慮して、最大競技者数を変更することができる。</p>	<p>P.64 1. 組み合わせおよびコース</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 全てのコースは、競技運営・審判委員会、<u>チーフレフリー</u>または<u>セクショナルレフリー</u>の判断で決定され、距離を測定し一列に整列するように設置し、… (略)</p> <p>(中略)</p> <p>(5) 競技運営・審判委員会および<u>チーフレフリー</u>は、競技者が競技規則に違反していないこと、公平に競技が行なわれていることなど環境や安全に考慮して、最大競技者数を変更することができる。</p> <p><u>(6) 競技者は、出場する競技種目以外競技エリアおよびコースに立ち入ってはならない。</u></p>
出場確認および招集	<p>P.20 2. 出場確認および招集</p> <p>(1) 競技者または代理人は、競技開始予定時刻の 30 分前 (出場確認) までに各競技種目の招集場所で出場確認の手続きを行わなければならない。時間までに出場確認を行わなかった場合は、原則として失格となる。</p> <p>(2) 競技者は、競技開始予定時刻の 10 分前 (招集) までに、招集場所に集合し審判員の指示により整列する。</p> <p>(3) 競技会当日のコンディション等により、審判長の判断でタイムテーブルが変更されることがある。その場合は公式掲示板に変更後のタイムテーブルが掲示され、そのタイムテーブルの変更に伴い出場確認の締め切り時間も変更される。</p>	<p>P.65 2. 出場確認および招集</p> <p>(1) 競技者または代理人は、競技開始予定時刻の 30 分前 (出場確認) までに各競技種目の招集場所で出場確認の手続きを行わなければならない。<u>指定された</u>時間までに出場確認を行わなかった場合は、原則として失格となる。</p> <p>(2) 競技者は<u>指定された時間</u>までに招集場所に集合し、審判員の指示により整列する。</p> <p>(3) 競技会当日のコンディション等により、<u>チーフレフリー</u>の判断でタイムテーブルが変更されることがある。その場合は公式掲示板に変更後のタイムテーブルが掲示され、そのタイムテーブルの変更に伴い出場確認の締め切り時間も変更される。</p>
スタート	<p>P.21 3. スタート</p> <p>(1) スタートは、1 回制 (1 スタートルール)、または 2 回制 (2 スタートルール) が採用され、主催団体はどちらの方法で競技が行われるのか事前に競技者に周知しなければならない。</p> <p>(2) スタートラインは、次のうちのどれかによって設定される。</p> <p>① 2 本のポール間のコード (紐)</p> <p>② 2 本のポール間の砂上に引かれたライン</p> <p>③ 2 本のポール間を結んだ目視ライン、またはスターターが別途決定したライン</p> <p>コード (紐) またはラインによってスタートラインが設定されている場合、競技者のつま先</p>	<p>P.65 3. スタート</p> <p>(1) スタートは、1 回制 (1 スタートルール) <u>とする。</u></p> <p>(2) スタートラインは、次のうちのどれかによって設定される。</p> <p>① 2 本のポール間のコード (紐)</p> <p>② 2 本のポール間の砂上に引かれたライン</p> <p>③ 2 本のポール間を結んだ目視ライン、またはスターターが別途決定したライン</p> <p><u>(3) コード (紐) またはラインによってスタートラインが設定されている場合、競技者のつま先</u></p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
<p style="text-align: center;">スタート</p> <p>(前ページの続き)</p>	<p>はラインの上または後ろでなければならない。しかし、競技者の体の一部はラインを越えてもよい。</p> <p>(3) ビーチ種目の場合、競技者の手の指先(スタンディングスタートを除く)、もしくはつま先は、スタートラインの上または後ろでなければならない。</p> <p>(4) ボード種目の場合、競技者が抱えるボードの一部がスタートラインを越えてもよいが、ボードをスタートラインに対して90°にしなければならない。または自然現象に適した角度に維持しなければならない。ビーチにボードを置く場合、ラインに対して90°で陸側に置かなければならない。</p> <p>(5) スキー種目の場合、スキーの船首は目視ラインの上、または後ろでなければならない。スキーはスタートラインに対して90°にしなければならない。または自然現象に適した角度に維持しなければならない。</p> <p>(6) スタートの合図は、スターターによるピストル、ホイッスル、エアホーン等で行われ、次のような方法が用いられる(ただし、ビーチフラッグスを除く)。</p> <p>(中略)</p> <p>④サーフ種目において、スタート後、他の競技者を妨害しなければ、競技者は任意に海に入水するコースを決めることができる。</p> <p>⑤リレー種目や複合種目において、次に海に入水する競技者は、海から上がってくる競技者の進路を妨害してはならない。</p> <p>(7) リレーにおける全ての競技者は、指定された位置からスタートしなければならない。指定された位置からスタートしなかったチームは失格となる。</p>	<p>ま先はラインの上または後ろでなければならない。しかし、競技者の体の一部はラインを越えてもよい。</p> <p>(4) ビーチ種目の場合、競技者の手の指先(スタンディングスタートを除く)、もしくはつま先は、スタートラインの上または後ろでなければならない。</p> <p>(5) ボード種目の場合、競技者が抱えるボードの一部がスタートラインを越えてもよいが、ボードをスタートラインに対して90°にしなければならない。または自然現象に適した角度に維持しなければならない。ビニ手にボードを置く場合、ラインに対して90°で陸側に置かなければならない。</p> <p>(6) スキー種目の場合、スキーの船首は目視ラインの上、または後ろでなければならない。スキーはスタートラインに対して90°にしなければならない。または自然現象に適した角度に維持しなければならない。</p> <p>(7) スタートの合図は、スターターによるピストル、ホイッスル、エアホーン等で行なわれ、次のような方法が用いられる(ただし、ビーチフラッグスを除く)。</p> <p>(中略)</p> <p>④全ての競技者は、指定された位置およびコースからスタートしなければならない。指定された位置およびコースからスタートしなかった競技者は失格となる。</p> <p>⑤サーフ種目において、スタート後、他の競技者を妨害しなければ、競技者は任意に海に入水するコースを決めることができる。</p> <p>⑥サーフ種目において、次に海に入水する競技者は、海から上がってくる競技者の進路を妨害してはならない。進路を妨害した場合は失格となる。</p> <p>(7) リレーにおける全ての競技者は、指定された位置からスタートしなければならない。指定された位置からスタートしなかったチームは失格となる。</p>
<p style="text-align: center;">不正スタート</p>	<p>P.22 4. 不正スタート</p> <p>(1) 1回制のスタートを採用する場合、スターターの「用意 (Set)」の号令で…(略)</p> <p>(2) 2回制のスタートを採用する場合、スターターの「用意 (Set)」の号令で競技者がスタートの姿勢をとった後およびスタートの合図の前に前方へのスタート動作を起こした競技者</p>	<p>P.66 4. 不正スタート</p> <p>(1) 1回制のスタートを採用する場合、スターターの「用意 (Set)」の号令で…(略)</p> <p>(2) 2回制のスタートを採用する場合、スターターの「用意 (Set)」の号令で競技者がスタートの姿勢をとった後およびスタートの合図の前に前方へのスタート動作を起こした競技者</p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
不正スタート (前ページの続き)	<p>は不正スタートとなる。2回目において不正スタートが繰り返された場合、それが1回目と同じ競技者であるか否かに拘わらず違反した競技者を失格とする(ただし、ビーチフラッグスを除く)。</p> <p>(3) スターターの合図に従わず、故意にスタートを遅らせた競技者は、不正スタートとなる。</p> <p>(4) スターターの最初の合図の後、音やその他の方法によって他の競技者を妨害した場合は失格となる(ただし、ビーチフラッグスの場合は除外となる)。</p> <p>(5) 何らかの理由により公平なスタートが行えなかったとスターターが判断した場合(技術的・用器具的な問題を含む)、競技者は呼び戻され、再スタートが行われる。</p> <p>(6) 競技者は、スタートの合図の前に、前方へのスタート動作を起こした場合に失格となる。競技者が動いたこと全てが失格となるわけではない。スタートの合図を予想して明らかに前方へのスタート動作を起こした競技者が失格となる(ただし、ビーチフラッグスを除く)。</p> <p>(7) 1人あるいはそれ以上の競技者が前方へのスタート動作を起こしたか否かの判断は、スターターとスターター補助員による。一般に、ある競技者のスタート動作が他の競技者の不正スタートにつられて生じた場合は、不正スタートによる失格とはしない。</p>	<p>は不正スタートとなる。2回目において不正スタートが繰り返された場合、それが1回目と同じ競技者であるか否かに拘わらず違反した競技者を失格とする(ただし、ビーチフラッグスを除く)。</p> <p>(2) スターターの合図に従わず、故意にスタートを遅らせた<u>全ての</u>競技者は、不正スタートとなる。</p> <p>(3) スターターの最初の合図の後、音やその他の方法によって他の競技者を妨害した場合は失格となる(ただし、ビーチフラッグスの場合は除外となる)。</p> <p>(4) 何らかの理由により公平なスタートが行えなかったとスターターが判断した場合(技術的・用器具的な問題を含む)、競技者は呼び戻され、再スタートが行なわれる。</p> <p>(5) 競技者は、スタートの合図の前に、前方へのスタート動作を起こした場合に失格となる。競技者が動いたこと全てが失格となるわけではない。スタートの合図を予想して明らかに前方へのスタート動作を起こした競技者が失格となる(ただし、ビーチフラッグスを除く)。</p> <p>(6) 1人あるいはそれ以上の競技者が前方へのスタート動作を起こしたか否かの判断は、スターターと<u>チェックスターター</u>による。一般に、ある競技者のスタート動作が他の競技者の不正スタートにつられて生じた場合は、不正スタートによる失格とはしない。</p>
チェンジオーバー	<p>P.23 5. チェンジオーバー</p> <p>ビーチリレーを除くリレー種目では、競技者の交代(チェンジオーバー)は次の競技者にタッチすることにより行われる。次の競技者へのタッチは、どちらかの手で次の競技者の手もしくは身体の他の部分にはっきりと触れなければならない。タッチされる競技者の足はチェンジオーバーラインの上またはラインの陸側になければならない。チェンジオーバーの際、次の競技者に助力を与えてはならない。</p>	<p>P.67 5. チェンジオーバー <u>※1つの文章を(1)~(2)に分割、(3)を追加。</u></p> <p>(1) ビーチリレーを除くリレー種目では、競技者の交代(チェンジオーバー)は次の競技者にタッチすることにより行なわれる。</p> <p>(2) 次の競技者へのタッチは、どちらかの手で次の競技者の手もしくは身体の他の部分にはっきりと触れなければならない。タッチされる競技者の足はチェンジオーバーラインの上またはラインの陸側になければならない。<u>チェンジオーバーの際、次の競技者に助力を与えてはならない。</u></p> <p>(3) <u>リレーにおける全ての競技者は、指定された位置およびコースからスタートしなければならない。指定された位置およびコースからスタートしなかったチームは失格となる。</u></p>
制限時間	<p>P.24 7. 制限時間</p> <p>(1) 審判長または競技別審判長の判断により、競技者の競技継続時間に制限時間を設定する</p>	<p>P.68 7. 制限時間</p> <p>(1) <u>チーフレフリー</u>または<u>セクショナルレフリー</u>の判断により、競技者の競技継続時間に</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
制限時間 （前ページの続き）	<p>ことができる。制限時間が設けられる場合は、競技前に審判長または競技別審判長から各競技者に伝えられる。審判長または競技別審判長により競技者の競技継続時間が制限時間を越えたと判断された場合、その競技者に競技の中止を指示できる。</p> <p>(2) 審判長または競技別審判長は、次のラウンドに進む競技者が確定した時、または競技者の技能不足により安全上競技を継続させることが危険と判断した場合、競技者に競技の中止を指示できる。</p>	<p>制限時間を設定することができる。制限時間が設けられる場合は、競技前に<u>チーフレフリー</u>または<u>セクショナルレフリー</u>から各競技者に伝えられる。<u>チーフレフリー</u>または<u>セクショナルレフリー</u>により競技者の競技継続時間が制限時間を越えたと判断された場合、その競技者に競技の中止を指示できる。</p> <p>(2) <u>チーフレフリー</u>または<u>セクショナルレフリー</u>は、次のラウンドに進む競技者が確定した時、または競技者の技能不足により安全上競技を継続させることが危険と判断した場合、競技者に競技の中止を指示できる。</p>
順位の決定	<p>P.24 8. 順位の決定</p> <p>(1) オーシャン競技の着順判定は、下記の通り判定される。</p> <p>①ランでゴールをする種目は、体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。着順判定は、競技者の胸の位置で判定される。</p> <p>（中略）</p> <p>(2) 審判員は、着順判定のために主催団体によって認められた公式のビデオ記録や写真等を補助資料として使用することができる。ビデオは審判長または競技別審判長より指示された審判員のみが確認するものとする。</p> <p>(3) 同着の場合は、次のように決定される。</p> <p>①次のラウンドへ進む資格のあるレース（予選、準々決勝、準決勝）で同着となった場合は、審判長により決定される。</p> <p>（中略）</p> <p>(4) 競技者が競技規則通りに正しくフィニッシュラインを越えることができなかった場合、競技者は正しく越えるように再度フィニッシュラインを通過することができる。ただし、一度正しくフィニッシュラインを通過した後は、競技が終了したとみなされ、レース中の違反を正すために再度コースに戻ることは認められない。</p> <p>(5) 審判長の判断により、着順判定や記録のために競技者に ID タグ（チップ）の着用を指示することがある。競技者は ID タグ（チップ）を指示された場所に着用…（略）</p>	<p>P.68 8. 順位の決定</p> <p>(1) オーシャン競技の着順判定は、下記の通り判定される。</p> <p>①ランでゴールをする種目は、体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。着順判定は、<u>フィニッシュラインを越える</u>競技者の胸の位置で判定される。</p> <p>（中略）</p> <p><u>(2) 全ての競技種目は目視で判定される。着順はフィニッシュジャッジにより判定される。</u></p> <p><u>(3) 審判員は、着順判定のために主催団体によって認められた公式のビデオ記録や写真等を補助資料として使用することができる。ビデオはチーフレフリーまたはセクショナルレフリーより指示された審判員のみが確認するものとする。</u></p> <p><u>(4) 同着の場合は、次のように決定される。</u></p> <p>①次のラウンドへ進む資格のあるレース（予選、準々決勝、準決勝）で同着となった場合は、<u>チーフレフリー</u>により決定される。</p> <p>（中略）</p> <p><u>(5) 競技者が競技規則通りに正しくフィニッシュラインを越えることができなかった場合、競技者は正しく越えるように再度フィニッシュラインを通過することができる。ただし、一度正しくフィニッシュラインを通過した後は、競技が終了したとみなされ、競技中の違反を正すために再度コースに戻ることは認められない。</u></p> <p><u>(6) チーフレフリーの判断により、着順判定や記録のために競技者に ID タグ（チップ）の着用を指示することがある。競技者は ID タグ（チップ）を指示された場所に着用…（略）</u></p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
サーフレース	P.26 (5). 競技の方法 (中略) (新設)	P.70 (5). 競技の方法 (中略) <u>③着順はフィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</u>
	P.27 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.71 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 <u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u>
	P.27 サーフレースの図	P.71 サーフレースの図 <u>※図の差し替え</u> <u>スイミングブイ (連ブイ) において、左側から1~9のコース番号を追記</u>
サーフチームレース	P.28 (5) 競技の方法 (中略) ⑥の下 ※サーフレース、およびサーフチームレースの場合、種目においては、チームごとの結果を判定するために、チームに属していない競技者は、得点を割り当てられない。	P.72 (5) 競技の方法 (中略) ⑥の下 ※サーフレース、およびサーフチームレースの場合、種目においては、チームごとの結果を判定するために、チームに属していない競技者は、得点を割り当てられない。
	P.29 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.73 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 <u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u>
	P.29 サーフチームレースの図	P.73 サーフチームレースの図 <u>※図の差し替え</u> <u>スイミングブイ (連ブイ) において、左側から1~9のコース番号を追記</u>
レスキューチューブ レスキュー	P.30 (4) コース (中略) ②スタートライン スタートラインは、ブイと向かい合うように設定する。ラインの長さは約48mで、両端に緑旗を立てる。	P.74 (4) コース (中略) ②スタートライン スタートラインは、ブイと向かい合うように <u>水際</u> に設定する。ラインの長さは約48mで、両端に緑旗を立てる。

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
レスキューチューブ レスキュー (前ページの続き)	<p>P.30 (5) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>②スターターの合図で、溺者役が… (中略) 溺者役がブイに触れたことを明確に伝える合図が別にある場合、審判長の判断により、そちらの方法を採用してもよい。</p> <p>③救助者は、スタート前にスタートラインを越えてもよいが、溺者役から… (略)</p> <p>(中略) ⑩の下</p>	<p>P.74 (5) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>②スターターの合図で、溺者役が… (中略)。溺者役がブイに触れたことを明確に伝える合図が別にある場合、<u>チーフレフリー</u>の判断により、そちらの方法を採用してもよい。</p> <p>③救助者は、スタート前にスタートラインを越えても<u>失格とならない</u>が、溺者役から… (略)</p> <p>(中略) ⑩の下</p> <p><u>※全ての競技者は、指定された位置からスタートしなければならない。</u></p>
	<p>P.32 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.76 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u></p>
	<p>P.32 レスキューチューブレスキューの図</p>	<p>P.76 レスキューチューブレスキューの図 <u>※図の差し替え</u></p> <p><u>スイミングブイ (連ブイ) において、左側から1~9のコース番号を追記。</u></p> <p><u>スタート・フィニッシュラインに、溺者・救助者・アシスタント2名を追記。</u></p>
レスキューチューブ レース	<p>P.33 (4) コース</p> <p>レスキューチューブレスキューに準じる。</p>	<p>P.77 (4) コース</p> <p><u>①ブイの位置</u></p> <p>レスキューチューブレスキューに準じる。</p> <p><u>②スタート・フィニッシュライン</u></p> <p><u>スタートラインは、フィニッシュラインと同じ。ラインの長さは約48mで、ブイと向かい合うように水際から約5mの浜に設定する。両端に緑旗を立てる。</u></p> <p><u>③ピックアップライン</u></p> <p><u>ピックアップラインは、ブイと向き合うように水際から約15mの浜に設定する。</u></p>
	<p>P.33 (5) 競技の方法</p> <p>①競技者は、レスキューチューブおよびフィン、各チームのブイに対面するように水際から約15mのピックアップラインより浜側に各自の判断で配置する。</p> <p>(中略)</p>	<p>P.77 (5) 競技の方法</p> <p>①競技者は、<u>各自の判断で</u>レスキューチューブおよびフィン、各チームのブイに対面するように水際から約15mのピックアップラインより浜側に<u>各自の判断で</u>配置する。</p> <p>(中略)</p>

競技規則の改正点一覧表

【第4章 オーシャン競技規則/第2節 オーシャン競技種目】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
レスキューチューブ レース (前ページの続き)	<p>③競技者は、スタートの合図でレスキューチューブとフィンが置かれた場所まで走り、各自の判断で着用し、ブイに向かって泳ぐ。</p> <p>(中略)</p>	<p>③競技者は、スターターの合図でレスキューチューブとフィンが置かれた場所まで走り、各自の判断で<u>装着</u>し、ブイに向かって泳ぐ。</p> <p>(中略)</p> <p><u>⑥着順はフィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</u></p>
	<p>P.34 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.78 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u></p>
	<p>P.34 レスキューチューブレースの図</p>	<p>P.78 レスキューチューブレースの図 <u>※図の差し替え</u></p> <p><u>スイミングブイ (連ブイ) において、左側から 1~9 のコース番号を追記。</u></p>
ランスイムラン	<p>P.35 (4) コース</p> <p>①ブイの位置</p> <p>スイミングブイは、最短 120m 沖合に配置し、コースは、約 200m 走り、約 300m 泳ぎ、約 200m 走りゴールするようにする。</p> <p>(中略)</p>	<p>P.79 (4) コース</p> <p>①ブイの位置</p> <p>スイミングブイは、<u>約 120m</u> 沖合に配置し、コースは、約 200m 走り、約 300m 泳ぎ、約 200m 走りゴールするようにする。</p> <p>(中略)</p>
	<p>P.35 (5) 競技の方法</p> <p>①競技者はスターターの合図で走り始め、緑/黄の折返し旗を回って入水し、スイミングブイを左から右へ回って泳ぐ。</p> <p>(中略)</p> <p>③着順はフィニッシュラインを越える胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p>	<p>P.79 (5) 競技の方法</p> <p>①競技者はスターターの合図で走り始め、緑/黄の折返し旗を回って入水し、スイミングブイを左から右へ回って泳ぐ。</p> <p>(中略)</p> <p>③着順はフィニッシュラインを越える<u>競技者</u>の胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p>
	<p>P.36 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.80 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p><u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u></p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
ランスイムラン (前ページの続き)	P.36 ランスイムランの図	P.80 ランスイムランの図 ※図の差し替え <u>スィミングブイ (連ブイ) において、左側から 1~9 のコース番号を追記。</u>
ビーチフラッグス	P.59 13. ビーチフラッグス	P.81 6. ビーチフラッグス
	P.59 (5) 競技の方法 ①スタートの姿勢 (ア) 競技者は指定されたコースで、体がスタートラインに対して 90° になるようにしてうつ伏せの姿勢になり、両足のつま先をスタートラインに乗せかかとを合わせる。 (中略) (エ) 競技者は、スタートエリアの砂を、ならず、平らにする、押し固めることは許されるが、砂を盛り上げること、掘ること、すくうことをしてはならない。ただし、つま先で砂を掘る (つま先を砂に埋め込む) ことは許される。 (中略) ③不正スタート 1 回制のスタートを採用する場合、スターターの「コンペティターズ・レディ (Competitors Ready)」の号令で競技者がスタートの姿勢をとった後およびスタートの合図の前に… (略) (中略) ⑥各ランスルーで除外される競技者数は 2 名を越えないものとする。ただし、決勝の場合、ランスルーで除外される競技者は、1 名を越えないものとする。 ⑦2 名以上の競技者が同時に 1 本のバトンを取った場合、かつ審判員がどちらの競技者が先にバトンを取ったか判定できない場合、掘んだバトンの位置に関係なく、… (略) (中略)	P.81 (5) 競技の方法 ①スタートの姿勢 (ア) 競技者は指定されたコースで、体がスタートラインに対して 90° になるようにしてうつ伏せの姿勢になり、両足のつま先をスタートラインに乗せかかと <u>または、足のいずれかの部分</u> を合わせる。 (中略) (エ) 競技者はスタートエリアの砂をならず、平らにする、押し固め <u>てもよい</u> が、砂を盛り上げること、掘ること、すくうことをしてはならない。 <u>また、砂の傾斜を不当に変更してはならない。</u> ただし、つま先で砂を掘 <u>ってもよい</u> (つま先を砂に埋め込む)。 (中略) ③不正スタート 1 回制のスタートを採用する場合、 スターターの「コンペティターズ・レディ (Competitors Ready)」の号令で競技者がスタートの姿勢をとった後およびスタートの合図の前に… (略) (中略) ⑥各ランスルーで除外される競技者数は 2 名を越えないものとする。ただし、 <u>準決勝および</u> 決勝の場合、ランスルーで除外される競技者は、1 名を越えないものとする。 ⑦2 名以上の競技者が同時に 1 本のバトンを取った場合、かつ審判員がどちら <u>か</u> の競技者が先にバトンを取ったか判定できない場合、掘んだバトンの位置に関係なく、… (略) (中略)
	P.62 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.84 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 <u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u>

競技規則の改正点一覧表

【第4章 オーシャン競技規則/第2節 オーシャン競技種目】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
ビーチフラッグス (前ページの続き)	②1名の競技者が2本以上のバトンを取った場合、または、1本目のバトンを確認した後、他の競技者がバトンを取ることを妨げた場合 (DQ61)。	②1名の競技者が2本以上のバトンを取った場合、または、 1本目のバトンを確認した後、他の 競技者がバトンを取ることを妨げた場合 <u>(バトンを横たえたり、目に触れないように覆うことも含む) (DQ61)。</u> ⇒ 誤植です。正しくは DQ11 です。
ビーチスプリント	P.63 14. ビーチスプリント	P.85 7. ビーチスプリント
	P.63 (4) コース ①コースは、スタートラインからフィニッシュラインまでの長さは90mとする。どちらのラインの端にも20mのランオフエリア(助走区域)が設置される。 (中略) ③競技者が直線コースを維持できるよう、各コースはロープで仕切られる。コースの幅は、可能であれば1.8m、最低でも1.5mとする。	P.85 (4) コース ①コースは、スタートラインからフィニッシュラインまでの長さは90mとする。 <u>フィニッシュラインの端には、20mのランオフエリア(オーバーラン)を設置する。</u> (中略) ③競技者が直線コースを維持できるよう、各コースはロープで仕切られる。コースの幅は、可能であれば1.8m、最低でも1.5mとする。 <u>④招集ラインは、スタートラインの後方5mのところスタートラインと並行に設置する。</u>
	P.64 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.86 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 <u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u>
	P.65 ビーチスプリントの図	P.87 ビーチスプリントの図 <u>※図の差し替え</u> <u>スタートラインの後方5mのところ、「招集ライン」を追加。</u>
2km (1km) ビーチラン	P.69 16. 2km (1km) ビーチラン	P.88 8. 2km (1km) ビーチラン
	P.69 (3) 1レースの最大競技者数 特に規定しない	P.88 (3) 1レースの最大競技者数 <u>40名</u>
	P.69 (4) コース コースは、水際から平行なコースを2つに分けて設置する。往路は、水際から遠いコースを走る。(第1と第3区間)。 ①距離 各500mの4区間(1kmの場合2区間)からなる全長2,000m(1kmの場合全長1,000m)とする。審判長または競技別審判長は、浜の状況を考慮し各区間の…(略)	P.88 (4) コース コースは、水際から平行なコースを2つに分けて設置する。 <u>往路は、水際から遠いコースを走る。(第1と第3区間)。</u> ①距離 各500mの4区間(1kmの場合2区間)からなる全長 <u>2km</u> (1kmの場合全長 <u>1,000m</u>) とする。 <u>チーフレフリー</u> または <u>セクショナルレフリー</u> は、浜の状況を考慮し各区間の…(略)

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
2km (1km) ビーチラン (前ページの続き)	<p>②スタートラインおよびフィニッシュライン</p> <p>スタートラインおよびフィニッシュラインの両端には緑旗を設置する。フィニッシュラインは、スタートラインを水際の方に延長したラインである。審判は、スタートラインとフィニッシュラインの長さを決定する。</p> <p>③折返し点</p> <p>スタート地点から 500m 離れた地点に折返し旗を設置する。</p>	<p>②スタートラインおよびフィニッシュライン</p> <p>スタートラインは砂上のラインまたは、2本の緑/黄旗の間に識別のできるコード(紐)で設置される。およびフィニッシュラインは2本の両端には緑旗を設置する。フィニッシュラインは、スタートラインを水際の方に延長したラインである。チーフレフリーまたはセクシヨナルレフリーは、スタートラインおよびフィニッシュラインの長さを決定する。</p> <p>③折返し点</p> <p>スタート地点から 500m 離れた地点に折返し旗(緑/黄旗)を設置する。</p>
	<p>P.69 (5) 競技の方法</p> <p>①靴の着用は競技中の安全性を考慮し使用可能とする。</p> <p>②スターターの合図により、競技者はスタートし、コースを2往復(1kmの場合1往復)する。</p> <p>③スタートはオーシャン競技総則(スタート)に準じる。</p> <p>④競技者はスタートの合図でコース左側を走り、500m離れた旗を時計回り(右回り)に回り、スタート地点の旗まで500m戻ってくる。スタート地点の旗を時計回り(右回り)に回り、再度折返し地点の旗まで500m走り、折返し地点の旗を回り、フィニッシュラインまで走ってゴールする。</p> <p>⑤着順はフィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定する。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p> <p>⑥競技者はスタートラインからフィニッシュラインまでの距離を他の競技者を妨げないで走り、フィニッシュラインを通過する。</p>	<p>P.88 (5) 競技の方法</p> <p>①靴の着用は競技中の安全性を考慮し使用可能とする。</p> <p>①スターターの合図により、競技者はスタートし、コースを2往復(1kmの場合1往復)する。</p> <p>②スタートはオーシャン競技総則(スタート)に準じる。</p> <p>③競技者はスタートの合図でコース左側を走り、500m離れた折返し旗を左から右に回り(時計回り)、スタート地点の旗まで500m戻ってくる。スタート地点の旗を左から右に回り(時計回り)、再度折返し地点の旗まで500m走り、折返し地点の旗を左から右に回り(時計回り)、フィニッシュラインまで走ってゴールする。</p> <p>④着順はフィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定する。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p> <p>⑤競技者はスタートラインからフィニッシュラインまでの距離を他の競技者を妨げないで走り、フィニッシュラインを通過する。</p>
	<p>P.70 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.89 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>①規定された通りにコースを終了しなかった場合(DQ12)。</p>
	<p>P.71 2km (1km) ビーチランの図</p>	<p>P.90 2km (1km) ビーチランの図 ※図の差し替え</p> <p>コース全体の変更、使用する旗の場所/色の変更。</p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
2×1km ビーチランリレー	(新設)	P.91 <u>9. 2×1km ビーチランリレー</u>
	(新設)	P.91 <u>(1) 競技人数</u> 2名
	(新設)	P.91 <u>(2) 使用器材</u> なし
	(新設)	P.91 <u>(3) 1レースの最大競技者数</u> 40 チーム
	(新設)	P.91 <u>(4) コース</u> <u>コースは、水際から平行なコースを2つに分けて設置する。</u> <u>①距離</u> <u>各500mの2区間からなる全長1kmとする。チーフレフリーまたはセクショナルレフリーは、浜の状況を考慮し各区間の距離を変更することがある。</u> <u>②スタートラインおよびフィニッシュライン</u> <u>スタートラインは砂上のラインまたは、2本の緑/黄旗の間に識別のできるコード(紐)で設置される。フィニッシュラインは2本の緑旗を設置する。チーフレフリーまたはセクショナルレフリーは、スタートラインおよびフィニッシュラインの長さを決定する。</u> <u>③折返し点</u> <u>スタート地点から500m離れた地点に折返し旗(緑/黄旗)を設置する。</u> <u>④チェンジオーバーゾーン</u> <u>チェンジオーバーゾーンは、スタート/折返しラインにある2本の緑/黄旗の間に設置する。</u>
(新設)	P.92 <u>(5) 競技の方法</u> <u>①2人の競技者それぞれが500m区間を走り、合計1km走る。</u> <u>②スタートはオーシャン競技規則(スタート)に準じる。</u> <u>③競技者はスタートの合図でコース左側を走り、500m離れた折返し旗を左から右に回り(時計回り)、折返しの旗まで500m走り戻る。</u> <u>④第1競技者は最初の折返し旗を左から右に回り(時計回り)、指定されたコースを戻りチェ</u>	

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
<p style="text-align: center;">2×1km ビーチランリレー</p> <p>(前ページの続き)</p>	(新設)	<p><u>レンジオーバーゾーンで待機する第2競技者にタッチする。</u></p> <p><u>⑤第2競技者へのタッチは、チェンジオーバーゾーンにある1本目の折返し旗と2本目の折返し旗の間で行ない、第2競技者が2本目の折返し旗を回る前に行なわなければならない。</u></p> <p><u>⑥着順はフィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</u></p> <p><u>⑦競技者はスタートラインからフィニッシュラインまでの間、他の競技者の進路を妨害するために故意にぶつかったり、妨げてはならない。</u></p>
	(新設)	<p>P.92 (6) 失格</p> <p><u>総則 (共通・オーシャン競技総則) の違反に加えて、次のような場合は失格となる。</u></p> <p><u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u></p>
	(新設)	<p>P.92 2×1km ビーチランリレーの図</p> <p><u>コース全体図の新規掲載。</u></p>
<p style="text-align: center;">ビーチリレー</p>	P.66 15. ビーチリレー	P.94 10. ビーチリレー
	<p>P.66 (4) コース</p> <p>ビーチスプリントに準じる。</p>	<p>P.94 (4) コース</p> <p><u>両端に20mのランオフエリア (オーバーラン) を設置する。その他は</u>ビーチスプリントに準じる。</p>
	<p>P.66 (5) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p>⑤競技中に他の競技者を故意に押し退けたり、コースを逸脱してはならない。</p> <p>⑥各競技者は、体を起こした状態でバトンの引継ぎを行わなければならない。</p> <p>⑦ゴールは、第4競技者がバトンを持って体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p>	<p>P.94 (5) 競技の方法</p> <p>(中略)</p> <p><u>⑤競技中に他の競技者を故意に押し退けたり、コースを逸脱してはならない。</u></p> <p><u>⑤各競技者は、体を起こした状態でバトンの引継ぎを行わなければならない。</u></p> <p><u>⑥着順は、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。第4競技者は</u>バトンを持って体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p>
	<p>P.67 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.95 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p><u>①種目別の競技規則に違反した場合。</u></p> <p><u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u></p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
サーフスキーレース	P.37 6. サーフスキーレース	P.97 11. サーフスキーレース
	P.37 (1) 競技人数 競技者1名、ドライスタートまたはドライフィニッシュの場合、ハンドラー3名以内	P.97 (1) 競技人数 競技者1名 <u>ドライスタートまたは(ドライフィニッシュの場合、ハンドラー3名以内)</u>
	P.37 (4) コース ①ブイの位置 2個のブイを最短300m 沖合に約75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。 ②スタートライン スタートラインは明確に設置しなくてもよいが必要があれば、水深が膝の位置を基準とし、ラインの中間に第1ブイが位置するように必要に応じて2本のポールを立てる。 ③フィニッシュライン ラインの中間に第3ブイが位置するように水中に設定する。ラインの長さは約35m で、両端にオレンジ旗を立てる。	P.97 (4) コース ①ブイの位置 2個のブイを <u>約</u> 300m 沖合に約75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。 ②スタートライン スタートラインは、明確に設置しなくてもよいが必要があれば、水深が膝の位置を基準とし、 <u>ラインの中間に</u> 第1ブイが <u>ラインの中央に</u> 位置するように必要に応じて2本のポールを立てる。 ③フィニッシュライン <u>フィニッシュラインは、</u> ラインの中間に第3ブイが位置するように水中に設定する。ラインの長さは約35m で、両端にオレンジ旗を立てる。
	P.37 (5) 競技の方法 (中略) ③スターターの合図で、競技者はサーフスキーをパドルで漕いで、ブイを左から右へ回って浜へ戻る。 (中略) ⑦競技中、サーフスキーまたはパドルの交換が必要な場合は、スタートラインから再スタートすれば交換することができる。ただし、他の競技者の進路を妨害してはならない。また、交換する場合、ハンドラーとして同一チームの競技者が別のサーフスキーまたはパドルを水際まで運ぶことは認められる。 ⑧ドライスタートおよびフィニッシュ	P.97 (5) 競技の方法 (中略) ③スターターの合図で、競技者はサーフスキーをパドルで漕いで、 <u>指定された</u> ブイを左から右へ回って浜へ戻る。 (中略) <u>⑦競技者は、他の競技者のサーフスキーを掴んだり、故意に進路を妨害してはならない。</u> <u>⑧競技中、サーフスキーまたはパドルの交換が必要な場合は、スタートラインから再スタートすれば交換することができる。ただし、他の競技者の進路を妨害してはならない。また、</u> <u>交換する場合、ハンドラーとして同一チームの競技者が別のサーフスキーまたはパドルを水際まで運ぶことは認められる。ハンドラーは共通競技総則に準じる。</u> ⑨ドライスタートおよび <u>ドライ</u> フィニッシュ

競技規則の改正点一覧表

【第4章 オーシャン競技規則/第2節 オーシャン競技種目】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
<p>サーフスキーレース (前ページの続き)</p>	<p>審判長または競技別審判長が公平な水中スタートを行えないと判断した場合、以下のようなドライスタートおよび/またはドライフィニッシュにより行われる。</p> <p>(中略)</p> <p>(イ) ドライフィニッシュラインは、水際から約 15m の浜に設定する。ラインの長さは約 20m で、両端に 4m の長さのポールにコースブイと同じ色の旗をつけて立てる。</p> <p>(中略)</p> <p>(オ) 着順判定は、競技者の胸がフィニッシュラインを越えた時点で判定され、競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p> <p>(カ) ハンドラーは、サーフスキーやパドルをコースから回収することができる。ハンドラーは共通競技総則に準じる。</p>	<p><u>チーフレフリー</u>または<u>セクショナルレフリー</u>が公平な水中スタート<u>および/またはフィニッシュ</u>が行えないと判断した場合、以下のようなドライスタートおよび/またはドライフィニッシュにより行なわれる。</p> <p>(中略)</p> <p>(イ) ドライフィニッシュラインは、水際から約 15m の浜に設定する。ラインの長さは約 20m で、両端に <u>4m の長さのポール</u>にコースブイと同じ色の旗を<u>つけて</u>立てる。</p> <p>(中略)</p> <p><u>(オ) ゴールは競技者が、フィニッシュラインを海側から通過する。</u></p> <p><u>(カ) 着順判定は、競技者の胸が</u>フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p> <p><u>(キ) ハンドラーは、サーフスキーやパドルをコースから回収することができる。ハンドラーは共通競技総則に準じる。</u></p>
	<p>P.39 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.99 (6) 失格</p> <p>(中略)</p> <p><u>①種目別の競技規則に違反した場合。</u></p> <p><u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u></p>
<p>サーフスキーリレー</p>	<p>P.40 7. サーフスキーリレー</p> <p>P.40 (4) コース</p> <p>①ブイの位置</p> <p>2個のブイを最短 250m 沖合に約 75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約 16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。</p> <p>(中略)</p> <p>③スタートライン</p> <p>スタートラインは、水深が膝の位置を基準とし、ラインの中間に第1ブイが位置するように必要に応じて2本のポールを立てる。</p> <p>(中略)</p>	<p>P.100 12. サーフスキーリレー</p> <p>P.100 (4) コース</p> <p>①ブイの位置</p> <p>2個のブイを<u>約</u>250m 沖合に約 75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約 16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。</p> <p>(中略)</p> <p>③スタートライン</p> <p>スタートラインは、<u>明確に設置しなくてもよいが、必要があれば</u>水深が膝の位置を基準とし、ラインの中間に第1ブイが位置するように必要に応じて2本のポールを立てる。</p> <p>(中略)</p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
<p>サーフスキーリレー (前ページの続き)</p>	<p>P.41 (5) 競技の方法 (中略)</p> <p>②第1競技者は、全てのブイを左から右へ回って浜へ向かい、サーフスキーとパドルを水際に残し、2本の折返し旗を回って、指定されたチェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。</p> <p>③第2競技者は、第1競技者と同じコースをとる。</p> <p>④第3競技者は、第1、第2競技者と同様のコースをとるが、第1折返し旗を回った後、フィニッシュラインを通過する。 (中略)</p> <p>競技者は、他の競技者のサーフスキーを掴んだり、妨害してはならない。また故意に進路を妨害してはならない。</p> <p>⑧レース中競技者のサーフスキーやパドルが、他のチームまたは競技者の進路を妨害しないよう、ハンドラーまたは同じチームのメンバーが配慮する。浜の混雑とスキー損傷を回避するため、スキーは可能な限り速やかに水際から除去しなければならない。</p> <p>⑨同一のクラブから複数のチームが出場する場合、各チームは識別ができる数字や文字を上衣にいれるか腕や脚に書くこと。</p> <p>⑩着順はフィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は、体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p>	<p>P.101 (5) 競技の方法 (中略)</p> <p>②第1競技者は、<u>指定された</u>ブイを左から右へ回って浜へ向かい、サーフスキーとパドルを水際に残し、2本の折返し旗を回って、<u>指定された</u>チェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。</p> <p>③第2競技者は、第1競技者と同じコースをとり、<u>チェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。</u></p> <p>④第3競技者は、第1、第2競技者と同様のコースをとり、<u>第1折返し旗を回った後、</u>フィニッシュラインを通過する。 (中略)</p> <p><u>⑧</u>競技者は、他の競技者のサーフスキーを掴んだり、<u>妨害してはならない。</u>また故意に進路を妨害してはならない。</p> <p><u>⑨</u>ハンドラーまたは<u>同じチームのメンバー</u> (本競技に出場している競技者) は競技中、<u>同じチームの</u>サーフスキーやパドルが、他のチームまたは競技者の進路を妨害しないよう<u>に配慮しなければならない。</u>浜の混雑とスキー損傷を回避するため、スキーは可能な限り速やかに水際から<u>回収</u>しなければならない。</p> <p><u>⑩</u>同じクラブから複数のチームが出場する場合、各チームは識別ができる数字や文字を上衣にいれるか腕や脚に書くこと。</p> <p><u>⑪</u>着順はフィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は、体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</p>
	<p>P.42 (6) 失格 (中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.102 (6) 失格 (中略)</p> <p><u>①種目別の競技規則に違反した場合。</u></p> <p><u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u></p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
ボードレース	P.43 8. ボードレース	P.103 13. ボードレース
	<p>P.43 (4) コース (中略)</p> <p>①ブイの位置 2個のブイを最短250m 沖合に約75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。</p> <p>②スタートライン スタートラインは、第1ブイがラインの中央から垂直に伸ばした線上に位置するように設置し、水際から約5mの浜に設定する。ラインの長さは約30mで、両端にポールを立てる。</p> <p>③フィニッシュライン フィニッシュラインは、ラインの中間に第3ブイが位置するように水際から約15mに設定する。ラインの長さは約20mで、両端にポールを設置する。フィニッシュの旗は、コースブイと同じ色とする。</p>	<p>P.103 (4) コース (中略)</p> <p>①ブイの位置 2個のブイを約250m 沖合に約75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。</p> <p>②スタートライン スタートラインは、第1ブイがラインの中央から垂直に伸ばした線上に位置するように設置し、水際から約5mの浜に設定する。ラインの長さは約30mで、両端にポールを立てる。</p> <p>③フィニッシュライン フィニッシュラインは、ラインの中間に第3ブイが位置するように水際から約15mに設定する。ラインの長さは約20mで、両端にポールを設置する。フィニッシュの旗は、コースブイと同じ色の旗を立てる。</p>
	<p>P.43 (5) 競技の方法 (中略)</p> <p>②スターターの合図で、競技者はボードと共に入水し、ブイを左から右へ回って浜に戻る。</p> <p>(中略)</p> <p>⑥競技中、ボードの交換が必要な場合は、スタートラインから再スタートすれば交換することができる。ただし、他の競技者の進路を妨害してはならない。また、交換する場合、ハンドラーとして同一チームの競技者が別のボードをスタートラインまで運ぶことは認められる。</p>	<p>P.103 (5) 競技の方法 (中略)</p> <p>②スターターの合図で、競技者はボードを漕いで指定されたブイを左から右へ回って浜に戻る。</p> <p>(中略)</p> <p>⑥競技中、ボードの交換が必要な場合は、スタートラインから再スタートすれば交換することができる。ただし、他の競技者の進路を妨害してはならない。また、交換する場合、ハンドラーとして同じチームの競技者が別のボードをスタートラインまで運ぶことは認められる。ハンドラーは共通競技総則に準じる。</p>
<p>P.44 (6) 失格 (中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p>	<p>P.104 (6) 失格 (中略)</p> <p>①種目別の競技規則に違反した場合。</p> <p>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</p>	

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
ボードリレー	P.46 9. ボードリレー	P.106 14. ボードリレー
	P.46 (4) コース ①ブイの位置 2個のブイを最短250m 沖合に約75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。 (中略)	P.106 (4) コース ①ブイの位置 2個のブイを約250m 沖合に約75m 間隔で配置する。もう1個のブイは、2個のブイから約16m 沖合の2個のブイの中間に配置し、3個のブイで三角形をつくる。 (中略)
	P.47 (5) 競技の方法 (中略) ②第1競技者は、ボードレースと同様の手順でスタートし、全てのブイを左から右へ回って浜へ向かい、ボードを水際に残し、2本の折返し旗を回って、指定されたチェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。 ③第2競技者は、第1競技者と同じコースをとり、2本の折返し旗を回って指定されたチェンジオーバーラインで第3競技者にタッチする。 ④第3競技者は、第1、第2競技者と同じコースをとり、第1折返し旗を回って、第2折返し旗の陸側を通過してからフィニッシュラインの両端に設置された2本の旗の間を通過する。 (中略) 競技者は、他の競技者のボードを掴んだり、妨害してはならない。また故意に進路を妨害してはならない。 ⑧レース中、競技者のボードが他のチームまたは競技者の進路を妨害しないよう、同じチームのハンドラー、または審判が承認した他のメンバーが配慮する。浜の混雑とボードの損傷を回避するため、ボードは可能な限り速やかに水際から除去しなければならない。 ⑨同一クラブから複数のチームが出場する場合、各チームは識別ができる数字や文字を上衣に入れるか腕や脚に書くこと。 (中略)	P.107 (5) 競技の方法 (中略) ②第1競技者は、ボードレースと同様の手順でスタートし指定されたブイを左から右へ回って浜へ向かい、ボードを水際に残し2本の折返し旗を回って、指定されたチェンジオーバーラインで待機している第2競技者にタッチする。 ③第2競技者は、第1競技者と同じコースをとり、 2本の折返し旗を回って指定されたチェンジオーバーラインで待機している 第3競技者にタッチする。 ④第3競技者は、第1、第2競技者と同じコースをとり、 第1折返し旗を回って、第2折返し旗の陸側を通過してからフィニッシュラインの両端に設置された2本の旗の間を通過する。 (中略) ⑧競技者は、他の競技者のボードを掴んだり、 妨害してはならない。また故意に進路を妨害してはならない。 ⑨ハンドラーまたは同じチームのメンバー (本競技に出場している競技者) は競技中、同じチームのボードが、他のチームまたは競技者の進路を妨害しないよう <u>に配慮しなければならない。</u> 浜の混雑とボードの損傷を回避するため、ボードは可能な限り速やかに水際から除去しなければならない。 ⑩同じクラブから複数のチームが出場する場合、各チームは識別ができる数字や文字を上衣に入れるか腕や脚に書くこと。 (中略)

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
ボードリレー (前ページの続き)	P.48 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.108 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 ①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。
	P.49 10. ボードレスキュー	P.109 15. ボードレスキュー
	P.49 (5) 競技の方法 (中略) ②スターターの合図で第1競技者(溺者役)が…(中略)。第1競技者がブイに触れたことを明確に伝える合図が別にある場合、審判の判断により、そちらの方法を採用する場合がある。 ③第2競技者(救助者)は、スタート前にスタートラインを越えてもよいが、第1競技者(溺者役)からの合図を受けたらスタートラインの浜側および…(略) ④第2競技者(救助者)は、指定されたブイを左から右へ回る(時計回り)。…(略) ⑤ゴールは、第1および第2競技者がボードを保持した状態で、…(略) ⑥着順は、フィニッシュラインを越える各チームの先頭競技者の胸の位置で…(略) ⑦第1および第2競技者は、ボードから離れても失格にはならないが、…(略) ⑧競技者は、他の競技者のボードを掴んだり、その他の妨害行為を行ったり、故意に進路を妨害してはならない。	P.109 (5) 競技の方法 (中略) ②スターターの合図で第1競技者(溺者役)が…(中略)。第1競技者がブイに触れたことを明確に伝える合図が別にある場合、 <u>チーフレフリー</u> の判断により、そちらの方法を採用 <u>してもよい</u> 。 ③第2競技者(救助者)は、第1救助者が到着の合図をする前にスタートをしてはならない。 ④第2競技者(救助者)は、スタート前にスタートラインを越えても失格とはならないが、第1競技者(溺者役)からの合図を受けたらスタートラインの浜側および…(略) ⑤第2競技者(救助者)は、指定されたブイを左から右へ回る(時計回り)。…(略) ⑥ゴールは、第1および第2競技者がボードを保持した状態で、…(略) ⑦着順は、フィニッシュラインを越える各チームの先頭競技者の胸の位置で…(略) ⑧第1および第2競技者は、ボードから離れても失格にはならないが、…(略) ⑨競技者は、他の競技者のボードを掴んだり、その他の妨害 <u>をしてはならない</u> 。また故意に進路を妨害してはならない。
	P.50 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.110 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 ①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。
	P.51 ボードリレーの図	P.111 ボードリレーの図 ※図の差し替え <u>スイミングブイ(連ブイ)において、左側から1~9のコース番号を追記。</u>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
オーシャンマン/ オーシャンウーマン	P.52 11. オーシャンマン/オーシャンウーマン	P.112 16. オーシャンマン/オーシャンウーマン
	<p>P.52 (4) コース</p> <p>①ブイの位置</p> <p>スイミングブイは干潮時における膝の深さの地点から最短 120m 沖合に配置する。ボード区間のブイはスイミングブイから約 50m 沖合に約 17m 間隔で配置する。スキー区間のブイは、ボードレースブイから約 50m 沖合に約 50m 間隔で 2 個のブイを配置し、もう 1 個のブイを 2 個のブイから約 10m 沖合の 2 個のブイの中間に配置し、3 個のブイで三角形をつくる。</p> <p>(中略)</p> <p>⑤フィニッシュライン</p> <p>2本の旗を 5m の間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは 1 本目の折返し旗から約 60m 離れた位置に、水際と垂直の角度で設置する。</p>	<p>P.112 (4) コース</p> <p>①ブイの位置</p> <p>スイミングブイは干潮時における膝の深さの地点から約 120m 沖合に配置する。ボード区間のブイはスイミングブイから約 50m 沖合に約 17m 間隔で配置する。スキー区間のブイは、ボード<u>コース</u>ブイから約 50m 沖合に約 50m 間隔で 2 個のブイを配置し、もう 1 個のブイを 2 個のブイから約 10m 沖合の 2 個のブイの中間に配置し、3 個のブイで三角形をつくる。</p> <p>(中略)</p> <p>⑤フィニッシュライン</p> <p>2本の旗を 5m の間隔を空けて設置する。フィニッシュラインは 1 本目の折返し旗から約 50m 離れた位置に、水際と垂直の角度で設置する。</p>
	<p>P.53 (5) 競技の方法</p> <p>①本競技は、スイム区間、ボード区間、サーフスキー区間、ラン区間の合計約 1400m のコースで行われる。</p> <p>(中略)</p> <p>⑥ボード区間：ボード区間は、スタートからチェンジオーバーラインまでに、スイミングブイおよび 2 つのボードレースブイを回り、ボードを水際に残して浜に戻り 2 本の折返し旗を回る。</p> <p>⑦サーフスキー区間：サーフスキー区間は、サーフスキーを浮かべた状態でスタートし、スイミングブイ、2 つのボードレースブイおよび 3 つのスキーレースブイを回り、サーフスキーおよびパドルを水際に残して浜に戻り 2 本の折返し旗を回る。</p> <p>(中略)</p>	<p>P.113 (5) 競技の方法</p> <p>①本競技は、スイム区間、ボード区間、サーフスキー区間、ラン区間の合計約 <u>1.4km</u> のコースで行なわれる。</p> <p>(中略)</p> <p><u>※スイム→ボード→サーフスキーの順の場合、以下の通りとなる。ただし、各区間コースのブイは左から右に回る。</u></p> <p>⑥ボード区間：ボード区間は、スタートからチェンジオーバーラインまでに、スイミングブイおよび 2 つのボード<u>コース</u>ブイを回り、ボードを水際に残して浜に戻り 2 本の折返し旗を回る。</p> <p>⑦サーフスキー区間：サーフスキー区間は、サーフスキーを浮かべた状態でスタートし、スイミングブイ、2 つのボード<u>コース</u>ブイおよび 3 つのスキー<u>コース</u>ブイを回り、サーフスキーおよびパドルを水際に残して浜に戻り 2 本の折返し旗を回る。</p> <p>(中略)</p>

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
オーシャンマン/ オーシャンウーマン (前ページの続き)	P.54 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.115 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 <u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u>
	P.55 オーシャンマン/オーシャンウーマンの図	P.115 オーシャンマン/オーシャンウーマンの図 ※図の差し替え <u>スイミングブイ (連ブイ) において、左側から 1~9 のコース番号を追記。</u> ボードレースブイ→ <u>ボードコースブイ</u> スキーブイ→ <u>スキーコースブイ</u>
オーシャンマン/ オーシャンウーマン リレー	P.56 12. オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	P.116 17. オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー
	P.56 (5) 競技の方法 (中略) ④ボード区間：ボードパドラーは、スタートからチェンジオーバーラインまでに、スイミングブイおよび 2 つのボードレースブイを回り、ボードを水際に残して浜に戻る。2 本の折返し旗を回り、水深が膝の位置で待機するサーフスキーパドラーにタッチする。浜に戻った後、ボードパドラーはボードを水際に置いてよい。 ⑤サーフスキー区間：サーフスキーパドラーは、サーフスキーを浮かべた状態でスタートし、スイミングブイ、2 つのボードレースブイおよび 3 つのスキーレースブイを回り、浜に戻り水際で待機するランナーにタッチする。ランナーにタッチする場所は、… (略) ⑥ラン区間：ランナーは、第 1 折返し旗を回り、フィニッシュラインを通過しゴールする。 ⑦公平なスタートとフィニッシュを期するため、スタートラインとフィニッシュラインからブイまでの直線は、審判の裁量で自然現象を考慮した上で変更する場合がある。 ⑧競技者は、指定されたコースからスタートしなければならない。 ⑨着順は、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。	P.116 (5) 競技の方法 (中略) ④ボード区間：ボードパドラーは、スタートからチェンジオーバーラインまでに、スイミングブイおよび 2 つのボード <u>コース</u> ブイを回り、ボードを水際に残して浜に戻る。2 本の折返し旗を回り、水深が膝の位置で待機するサーフスキーパドラーにタッチする。 浜に戻った後、ボードパドラーはボードを水際に置いてよい。 ⑤サーフスキー区間：サーフスキーパドラーは、サーフスキーを浮かべた状態でスタートし、スイミングブイ、2 つのボード <u>コース</u> ブイおよび 3 つのスキー <u>コース</u> ブイを回り、浜に戻り水際で待機するランナーにタッチする。ランナーにタッチする場所は、… (略) ⑥ラン区間：ランナーは、第 1 折返し旗を回り、 <u>2 本目の折返し旗の陸側を通過し、</u> フィニッシュラインの <u>両端に設置された旗の間を</u> を通過しゴールする。 ⑦公平なスタートとフィニッシュを期するため、スタートラインとフィニッシュラインからブイまでの直線は、審判の裁量で自然現象を考慮した上で変更する場合がある。 <u>⑦競技者は、指定されたコースからスタートしなければならない。</u> <u>⑧着順は、フィニッシュラインを越える競技者の胸の位置で判定される。競技者は体を起こした状態でフィニッシュラインを足で越えなければならない。</u>

競技規則の改正点一覧表

【第4章 オーシャン競技規則/第2節 オーシャン競技種目】

項目・競技種目	旧 (2014年版)	新 (2016年版)
オーシャンマン/ オーシャンウーマン リレー (前ページの続き)	⑩競技者は、最終ブイを通過するまではサーフスキーまたはボードを保持していなければならない。最終ブイから戻る途中でサーフスキーまたはボードが離れても失格とはならない。ブイに向かう途中でスキーまたはボードが離れても失格とはならないが、この場合は、サーフスキーまたはボードを回収し、保持した状態でコースごとの最終ブイを通過し、コースを終了する。	⑨競技者は、最終ブイを通過するまではサーフスキーまたはボードを保持していなければならない。最終ブイから戻る途中でサーフスキーまたはボードが離れても失格とはならない。ブイに向かう途中でサーフスキーまたはボードが離れても失格とはならないが、この場合は、サーフスキーまたはボードを回収し、保持した状態でコースごとの最終ブイを通過し、コースを終了する。
	P.58 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。	P.118 (6) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 <u>①規定された通りにコースを終了しなかった場合 (DQ12)。</u>
	P.58 オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーの図	P.118 オーシャンマン/オーシャンウーマンリレーの図 <u>※図の差し替え</u> <u>スィミングブイ (連ブイ) において、左側から1~9のコース番号を追記。</u> ボードレースブイ→ <u>ボードコースブイ</u> スキーブイ→ <u>スキーコースブイ</u>
オーシャン競技 失格コード表	P.146～ 失格コード表 (割愛)	P.119～ <u>オーシャン競技失格コード表</u> <u>※2016年版より、オーシャン競技・プール競技・SERCのそれぞれに、各競技失格コード表が設けられた。全競技共通ではなくなった為、必ず確認をお願いします。</u>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
(導入)	P.112 (新設)	P.122 <u>シュミレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技 (SERC) は、チームリーダーの指示の下にチームとして行動する4人のライフセーバーの主導権、判断、知識および能力をテストする。開始前にシュミレーテッド・エマージェンシーの状況は競技者には知らせておらず、競技を実施するにはライフセービングスキルを適用する。この競技は2分の時間制限内に実施される。全てのチームは同じ状況設定で、同じ審判員により評価される。</u> <u>競技は男女の区別なく実施され、チームはどのような男女の組み合わせでも成立する。</u>
出場確認および招集	P.112 2. 出場確認および招集 (1) 競技者または代理人は出場確認の手続きを行わなければならない。出場確認を行わなかった場合は、そのチームは SERC に出場できない場合がある。 (2) 競技者は競技開始前の指定された時間に招集エリア（ロックアップエリア）に速やかに集合するものとする。競技の開始時に招集エリア（ロックアップエリア）にいないチームは失格となる。 (3) 主催者は、口頭または紙面で指示を伝える時間を十分に確保すること。	P.122 2. 出場確認および招集 (1) 競技者または代理人は出場確認の手続きを行わなければならない。 <u>時間までに</u> 出場確認を行わなかった場合は、 <u>原則として失格となる。</u> (2) 競技者は競技開始前の指定された時間に <u>招集エリア</u> ロックアップエリア <u>(招集場所)</u> に速やかに集合するものとする。競技の開始時に <u>招集エリア</u> ロックアップエリアにいないチームは失格となる。 (3) 主催者は、口頭または紙面で指示を伝える時間を十分に確保すること。
不正行為	P.112 4. 不正行為 (中略) (2) 競技エリアに自分たちの所持品または器材を持ち込んではいない。 ①持ち込みできるもの メガネおよびコンタクトレンズ等の視力矯正器具（矯正用ゴーグルまたはマスクは不可）。 (中略)	P.123 4. 不正行為 (中略) (2) 競技エリアに自分たちの所持品または器材を持ち込んではいない。 ①持ち込みできるもの <u>眼鏡</u> およびコンタクトレンズ等の視力矯正器具（矯正用ゴーグルまたはマスクは不可）。 (中略)

競技規則の改正点一覧表 **【第5章 SERC 規則／第2節 SERC 種目】**

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
SERC	<p>P.114 (1) 競技人数 4名（男女の区分なく行われる）</p>	<p>P.124 (1) 競技人数 4名（男女の区分なく行われる）</p>
	<p>P.114 (4) 競技の方法 （中略） ④状況設定 緊急事態の設定は競技開始まで秘密にされる。緊急事態の設定はできるだけ現実的（かつ安全）に演出されるものとし、競技者の想像力をテストするものであってはならない。</p> <p>⑤溺者、傷病者、マネキン、バイスタンダー （中略） （ウ）溺者、傷病者の種類が目印（例、意識不明を示す額の赤 / 黒の×印）に示される場合、競技者は開始前に通知される。競技者は、マネキンに対応する場合、息をしていない脈のない溺者、傷病者として扱うものとする。 （中略）</p>	<p>P.124 (4) 競技の方法 （中略） ④状況設定 状況設定は競技開始まで秘密にされる。緊急事態の設定は、できるだけ現実的（かつ安全）に演出されるものとし、競技者の想像力をテストするものであてはならない。<u>例えば、演技者が、手にやけどを負ったと申し出た状況は、火災、電気コード、化学物質が、シミュレートされた証拠により演出される（実際の火、通電中のコード、実際の化学物質を使用するべきではない）。</u></p> <p>⑤溺者、傷病者、マネキン、バイスタンダー （中略） （ウ）溺者、傷病者の種類が目印（例、意識不明を示す額の赤 / 黒の×印）に示される場合、競技者は開始前に通知される。競技者は、マネキンに対応する場合、<u>呼吸</u>をしていない脈のない溺者、傷病者として扱うものとする。 （中略）</p>
	<p>P.116 (5) 救助の原則 ①ライフセーバーとライフガードの対応の違い SERC 競技者は、指定されたチームリーダーの指示の下に連携したチームの中で行動する。ライフセーバー4名で構成される団体として対応することを期待される。…（略） （中略） ③競技者は状況評価の際に、以下を考慮する （中略） ●溺者、傷病者の状態（泳げない人、泳ぎの下手な人） （中略） ●周囲の状態（水深、入水および着水点）</p>	<p>P.126 (5) 救助の原則 ①ライフセーバーとライフガードの対応の違い SERC 競技者は、指定されたチームリーダーの指示の下に連携したチームの中で行動する。ライフセーバー4名で構成される<u>チーム</u>として対応することを<u>求められる</u>。…（略） （中略） ③競技者は状況評価の際に、以下を考慮する （中略） ●溺者、傷病者の状態（<u>例</u>、泳げない人、泳ぎの下手な人） （中略） ●周囲の状態（<u>例</u>、水深、入水および着水点）</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p>SERC (前ページの続き)</p>	<p>④競技者はその状況評価に基づき、取り入れ得る行動方針を計画する (中略) 計画では状況管理を確立すると共に、可能な限り多くの命を救うことを目指すべきである。 多数の溺者、傷病者の救助管理では、救助者に複数の選択肢が与えられる。 (中略) ⑥救助を実施する際は、競技者は以下を覚えていなければならない ●自分が最も安全な位置から救助すること (中略) 入水が不可欠な場合は、競技者は、自分の命を絶対に危険にさらさない状況を作るための、最も有効な技術を選ぶ。… (略)</p>	<p>④競技者はその状況評価に基づき、取り入れ得る行動方針を計画する (中略) 計画では状況管理を確立すると共に、可能な限り多くの命を救うことを目指す<u>べきである</u>。 多数の溺者、傷病者の救助管理では、救助者に複数の選択肢が与えられる。 (中略) ⑥救助を実施する際は、競技者は以下を覚えていなければならない ●自分<u>自身</u>が最も安全な位置から救助すること (中略) 入水が不可欠な場合は、競技者は、自分<u>自身</u>の命を絶対に危険にさらさない状況を作るための、最も有効な技術を選ぶ。… (略)</p>
	<p>P.118 (6) 判定と採点 世界選手権では、審判員6人以上と審判員長1人が必要である。採点シートは、… (略) ①採点制度 この競技で使用される採点制度では、審判員はその技能を使って得点配分を行うことが可能であり、競技者は適切だが予期せぬ対応を行うよう規定される。… (略) (中略) 傷病者の問題を迅速かつ正確に認識することは、この競技で勝利を得るための重要な第1歩である。認識の成功は、溺者、傷病者の状況設定および事故演出と密接な関係がある。採点では、どの溺者、傷病者を優先するかに対する競技者の正確な判断に得点が与えられる。どの溺者、傷病者を優先するかに対する競技者の判断は、緊急事態の性質によって異なる。… (略)</p>	<p>P.128 (6) 判定と採点 世界選手権では、審判員6人以上と審判員長1人が必要である。採点シートは、… (略) ①採点制度 この競技で使用される採点制度では、審判員は<u>採点シート</u>を使って得点配分を行なうことが可能であり、競技者は適切だが予期せぬ対応を行うよう規定される。… (略) (中略) 傷病者の問題を迅速かつ正確に認識することは、この競技で<u>勝利を得るための重要なポイントであり、認識の成功は、</u>溺者、傷病者の状況設定および事故演出と密接な関係がある。<u>競技者が、</u>どの溺者、傷病者を優先するかに対する<u>競技者の</u>正確な判断に得点が与えられる。<u>どの溺者、傷病者を優先するかに対する競技者の</u>判断は、緊急事態の性質によって異なる。… (略)</p>
	<p>P.119 (7) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 ②外部からの援助、指示、または助言を受けた場合 (DQ63)。 ③ロックアップエリアで遠距離通信機を用いた場合 (DQ64)。</p>	<p>P.129 (7) 失格 (中略) ①種目別の競技規則に違反した場合。 ①外部からの援助、指示、または助言を受けた場合 <u>(DQ7)</u>。 ②ロックアップエリアで遠距離通信機を<u>持ち込んだ</u>場合 <u>(DQ8)</u>。</p>

競技規則の改正点一覧表

【第5章 SERC 規則／第2節 SERC 種目】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
SERC (前ページの続き)	④競技の一部として提供されていない器材を用いた場合 (DQ65)。 ⑤演技者に身体的、または言葉による暴力を加えた場合 (DQ66)	③競技の一部として提供されていない器材を用いた場合 (DQ9)。 ④演技者に身体的、または言葉による暴力を加えた場合 (DQ10)。
SERC 失格コード表	P.146～ 失格コード表 (割愛)	P.130 <u>シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技失格コード表</u> ※2016年版より、オーシャン競技・プール競技・SERCのそれぞれに、各競技失格コード表が設けられた。全競技共通ではなくなった為、必ず確認をお願いします。
サンプル採点シート	(新設)	P.131～ サンプル採点シート <u>※ILS 競技規則に準じたサンプル採点シートを新たに掲載。</u> 全般、泳げない人、泳ぎが下手な人、意識不明者／呼吸停止者、負傷した溺者／傷病者

競技規則の改正点一覧表

【第6章 競技役員（オフィシャル）】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）	
競技役員 （オフィシャル）	審判長 副審判長 競技別審判長 主任審判員 出発合図員 出発合図補助員 招集員 IRB 審判員 コース審判員 折返し観察員 泳法審判員 着順審判員 計時員 記録員 総合記録員 器材検査員 シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技採点員	<p>※ILS 競技規則に準じ、原則英語表記（記載上はカタカナ）に揃える。</p> <p><u>チーフレフリー</u> <u>デピュティーチーフレフリー</u> <u>セクショナルレフリー</u> <u>チーフジャッジ</u> <u>スターター</u> <u>チェックスターター</u> <u>マーシャル</u> <u>IRB ジャッジ</u> <u>コースジャッジ</u> <u>ターンジャッジ</u> <u>レーンジャッジ</u> <u>フィニッシュジャッジ</u> <u>タイムキーパー</u> <u>レコーダー</u> <u>ヘッドスコアラール</u> <u>スクルーティニア</u> <u>シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技ジャッジ</u></p>	
	※以降の項目は、上記の名称以外の変更点を主に記載し、名称のみ変更の項目については割愛する。		
	P.123 1. 規律委員長 審判長または上訴委員から付託された問題や抗議を解決するために委員を任命する責任がある。	P.139 1. 規律委員長 <u>競技運営・審判委員会、チーフレフリー</u> または上訴委員から付託された問題や抗議を解決するために委員を任命する責任がある。	
	P.123 2. 規律委員 規律委員は、審判長、または上訴委員会から上がって来るあらゆる問題に裁定を下す。…（略）	P.139 2. 規律委員 規律委員は、 <u>競技運営・審判委員会、チーフレフリー</u> 、または上訴委員会から上がって来るあらゆる問題に裁定を下す。…（略）	

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
競技役員 （オフィシャル） （前ページの続き）	P.124 7. 競技別審判長（オーシャン競技）／イベントディレクター（プール競技） 競技別審判長は、担当する競技の運営について、審判長に準じた任務を持ち、進行状況を審判長に報告する。	P.141 7. セクショナルレフリー（競技別審判長） ※オーシャン競技／ イベントディレクター ※プール競技 <u>セクショナルレフリー</u> は、担当する競技の運営について、 <u>チーフレフリー</u> に準じた任務を持ち、進行状況を <u>チーフレフリー</u> に報告する。 <u>イベントディレクターは、担当する競技の準備ができたことをスターターに告げる。競技が終了したことを競技者に伝え退水の指示をする。</u>
	P.125 8. 主任審判員 （中略） (2) 競技規則に準じて、各審判員の任務について指示を与える。	P.141 8. チーフジャッジ（主任審判員） （中略） (2) 競技規則に準じて、 <u>コースの設営</u> と各審判員の任務について指示を与える。
	P.125 9. 出発合図員 （中略） (1) 第3章「オーシャン競技総則」、および第4章「プール競技総則」のスタート、不正スタートに準じて、競技者を公正にスタートさせるまで競技者を掌握する。 (2) 審判長または競技別審判長の指示により競技の進行を行う。 (3) 審判長または競技別審判長は、必要に応じて出発合図補助員を置く。	P.141 9. スターター（出発合図員） （中略） (1) 第3章「 <u>プール</u> 競技総則」、および第4章「 <u>オーシャン</u> 競技総則」のスタート、不正スタートに準じて、競技者を公正にスタートさせるまで競技者を掌握する。 <u>(2) スタートが公平であるか否かを判断し、個々の種目の規則に従って失格の判断をする。</u> <u>(3) チーフレフリーまたはセクショナルレフリーの指示により競技の進行を行う。</u> <u>(3) 審判長または競技別審判長は、必要に応じて出発合図補助員を置く。</u> <u>(4) スタートの遅延行為に対し、チーフレフリーまたはセクショナルレフリーに報告する。</u>
	P.125 11. 招集員 (1) 第3章「オーシャン競技総則」、および第4章「プール競技総則」の組み合わせおよびコースに準じて、審判長または競技別審判長の指示により組み合わせを作成する。 (2) オーシャンおよびプール競技総則（出場確認および招集）に準じて、競技者の出場確認を行う。 (3) 組み合わせリストに基づき競技者を呼び、競技者を整列させ待機させる。 (4) 競技スタート時間になったら、競技者をスタート地点まで誘導する。	P.142 11. マーシャル（招集員） <u>(1) 第3章「オーシャン競技総則」、および第4章「プール競技総則」の組み合わせおよびコースに準じて、審判長または競技別審判長の指示により組み合わせを作成する。</u> <u>(1) オーシャンおよびプール競技総則（出場確認および招集）に準じて、競技者の出場確認を行なう。</u> <u>(2) 組み合わせリストに基づき競技者を呼び、競技者を整列させ待機させる。</u> <u>(3) 競技スタート時間になったら、競技者をスタート地点まで誘導する。</u> <u>(4) スタート前に競技者が規則を遵守するように促す。</u>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
競技役員 （オフィシャル） （前ページの続き）	P.127 16. 着順審判員 (1) オーシャン競技 （中略） ③着順が決定した後、着順を記した札を競技者に渡す。 (2) プール競技 （中略）	P.143 16. フィニッシュジャッジ（着順審判員） ※(1)と(2)の順序が入れ替わっている。 (1) <u>プール</u> 競技 （中略） (2) <u>オーシャン</u> 競技 （中略） ③着順が決定した後、着順を記した札を競技者に渡し <u>整理させる</u> 。
	P.127 19. 総合記録員・記録員 （新設）	P.144 19. レコーダー（記録員） <u>(1) 競技者から着順を記した札を回収し、競技結果のリストを作成する。</u>
	P.127 19. 総合記録員・記録員 （中略） (6) この他、オーシャン競技とプール競技では次のような任務が挙げられる。 ①オーシャン競技 (ア) 競技者から着順を記した札を回収し競技結果のリストを作成する。 (イ) 審判長または競技別審判長から指示された方法により、次のラウンドでの組み合わせおよびコースを決定する。 ②プール競技 （中略）	P.144 20. ヘッドスコアラー（総合記録員） ※(6)①と②の順序が入れ替わっている。 （中略） (6) <u>その他、プール競技とオーシャン競技では次のような任務が挙げられる。</u> ① <u>プール</u> 競技 （中略） ② <u>オーシャン</u> 競技 (ア) 競技者から着順を記した札を回収し競技結果のリストを作成する。 <u>(ア) チーフレフリーまたはセクショナルレフリーから指示された方法により、次のラウンドでの組み合わせおよびコースを決定する。</u>
	P.128 20. 器材検査員 (1) 審判長または競技別審判長の指示により、第2章「共通競技総則（競技器材）」および第7章「競技器材の規格」に準じて競技者および主催団体が提供する競技器材が適切であるか監察する。 (2) 競技者の使用する器材が競技規則違反の場合は、直ちに審判長または競技別審判長に報告する。 (3) 主催団体が提供する競技器材に破損や欠陥がある場合は、直ちに審判長または競技別審判長に報告し、適切な器材と交換する。	P.144 21. スクルーティニア（器材検査員） ⇒ <u>誤植、正しくは スクルーティニア</u> (1) <u>チーフレフリー</u> または <u>セクショナルレフリー</u> の指示により、第2章「共通競技総則（競技器材）」および第7章「競技器材の規格」に準じて競技者および主催団体が提供する競技器材が適切であるか監察する。 <u>(2) 競技者が使用する器材の検査は競技前、競技中、競技終了後任意に行なうことができる。</u> <u>(3) 競技者の使用する器材が競技規則違反の場合は、直ちにチーフレフリーまたはセクショナルレフリーに報告する。</u> <u>(4) 主催団体が提供する競技器材に破損や欠陥がある場合は、直ちにチーフレフリーまたはセクショナルレフリーに報告し、適切な器材と交換する。</u>

競技規則の改正点一覧表

【第6章 競技役員（オフィシャル）】

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
競技役員 （オフィシャル） （前ページの続き）	P.128 21. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）採点員 （中略） (2) SERC 審判員は、本協会の認定審判員資格に加えて、指導員資格を取得して…（略）	P.128 22. シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技（SERC）ジャッジ （中略） (2) SERC 審判員は、 本協会の認定審判員資格に加えて、指導員資格を取得して…（略）

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
器材の規格	P.132 第7章 競技器材の規格 競技会で使用することができる競技器材は、国際ライフセービング連盟に準じ以下の通りとする。	P.148 第7章 競技器材の規格 競技会で使用することができる競技器材は、 <u>国際ライフセービング連盟に準じ以下の通りとする。</u>
	P.148 2. レスキューチューブ （中略）	P.132 2. レスキューチューブ （中略） <u>(5) 総重量 600g以上 780g以下</u>
	P.135 9. スローライン (1) スローライン種目の場合は、非メモリー機能を装備するポリプロピレン製で水に浮き編んだもの （中略）	P.151 9. スローライン (1) スローライン種目の場合は <u>編まれたもので、形状記憶機能がなく</u> ポリプロピレン製で水に <u>浮くもの。</u> （中略）
	P.144 第9章 付録 水着に関する規定 1.この規定は、日本ライフセービング協会（以下JLA）競技規則第2章 6.服装(2)「ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般良識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる競技者も競技に参加することができない」に基づき、水着に関する必要な事項を定める。 2.プール競技およびオーシャン競技で着用される水着は、以下の基準を満たさなければならない。水着の形状（身体を覆う範囲）は次の通りとする。 (1) 男子はへそを超えず、膝までとする。 (2) 女子は肩から膝までとする。ただし首、肩を覆うことはできない。ただし、この基準を満たしていれば、ツーピースタイプは許可される。 3.プール競技・オーシャン競技（スイム種目・区間）で着用される水着の素材および構造は、次の通りとする。 (1) 素材は繊維のみとする。 (2) 繊維でないもの、また透過性のないものは認められない。 (3) 素材の厚さを最大0.8mmとする。 (4) ジッパーや他の身体を締め付けるものは使用してはならない。ただし、水着を留めるた	P.151 <u>11. 水着 ※2014年版 第9章付録「水着に関する規定」を、第7章へ</u> 1.この規定は、日本ライフセービング協会（以下JLA）競技規則第2章 6.服装(2)「ユニフォーム、水着、キャップの性質、デザインが一般良識に反すると主催団体が判断した場合は、いかなる競技者も競技に参加することができない」に基づき、水着に関する必要な事項を定める。 (1) プール競技およびオーシャン競技で着用される水着は、以下の基準を満たさなければならない。水着の形状（身体を覆う範囲）は次の通りとする。 <u>①</u> 男子はへそを超えず、膝までとする。 <u>②</u> 女子は肩から膝までとする。ただし首、肩を覆うことはできない。 ただし、 この基準を満たしていれば、ツーピースタイプは許可される。 (2) プール競技 <u>および</u> オーシャン競技 <u>種目（スイム種目・区間）</u> で着用される水着の素材および構造は、次の通りとする。 <u>①</u> 素材は繊維のみとする。 <u>②</u> 繊維でないもの、また透過性のないもの（ <u>ウエットスーツ等</u> ）は認められない。 <u>③</u> 素材の厚さを最大0.8mmとする。 <u>④</u> 男子水着の上部または女子のツーピース水着のボトムを留めるための紐を除き、ジッパー

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
<p>器材の規格 (前ページの続き)</p>	<p>めに用いる紐を除く。</p> <p>(5) 浮力、鎮痛作用、化学・医学的刺激、他の外部からの刺激または作用のある水着は認められない。</p> <p>(6) 水着の素材には、物を貼り付けてはならない（ただし、メーカーのロゴマークやチーム名などを除く）。</p> <p>4.競技者は競技に有利とならなければ、水着の下に繊維素材の水着（モDESTY水着）を着用することができる。これらの水着は、男子はショートスタイルに、また女子はツーピースタイプに限る。</p> <p>5.宗教的・文化的多様性の観点から、競技に有利とならなければ審判長の判断により身体の大部分を覆うような繊維素材の水着（体型にぴったりしていないもの）が認められる。</p> <p>6.ウエットスーツ等は、水温（水面下約30cmで計測）が16℃以下、またはその他自然状況により安全上必要であると主催団体が判断した場合に限り、オーシャン競技において許可される。</p> <p>7.スイム種目・区間で着用されるウエットスーツの厚さは、5mm以下とし、各部分の厚さの相違は0.5mmまでとする。また、ウエットスーツには、浮力や推進力を向上させるような加工を施してはならない。また、ウエットスーツは、一枚のみ着用することができる（重ね着をしてはならない）。</p> <p>8.スイム種目・区間以外の種目の場合、身体を保護するための衣類（ショートパンツ、ラッシュガード、Tシャツ等）は、主催団体から特別な指示がない限り競技中、任意に着用することができる。</p> <p>9.競技者は、競技に相応しいものであればサングラスやメガネを着用することができる。</p> <p>10.この規定の改廃は、競技運営・審判委員会の議決による。</p>	<p>またはその他の身体を締め付けるものは使用してはならない。ただし、水着を留めるために用いる紐を除く。</p> <p>⑤競技者が着用する水着は、浮力を助けるものであってはならない。</p> <p>⑥浮力、鎮痛作用、化学・医学的刺激、またはその他の外部からの刺激および作用のある水着は認められない。</p> <p>⑦水着の素材には、物を貼り付けてはならない（ただし、メーカーのロゴマークやクラブ名などを除く）。</p> <p>4.競技者は競技に有利とならなければ、水着の下に繊維素材の水着（モDESTY水着）を着用することができる。これらの水着は、男子はショートスタイルに、また女子はツーピースタイプに限る。 → 第2章共通競技総則 8. 服装等 (5) ②へ</p> <p>5.宗教的・文化的多様性の観点から、競技に有利とならなければ審判長の判断により身体の大部分を覆うような繊維素材の水着（体型にぴったりしていないもの）が認められる。 → 第2章共通競技総則 8. 服装等 (5) ③へ</p> <p>6.ウエットスーツ等は、水温（水面下約30cmで計測）が16℃以下、またはその他自然状況により安全上必要であると主催団体が判断した場合に限り、オーシャン競技において許可される。 → 第2章共通競技総則 8. 服装等 (8)と同じ</p> <p>7.スイム種目・区間で着用されるウエットスーツの厚さは、5mm以下とし、各部分の厚さの相違は0.5mmまでとする。また、ウエットスーツには、浮力や推進力を向上させるような加工を施してはならない。また、ウエットスーツは、一枚のみ着用することができる（重ね着をしてはならない）。 → 第7章器材の規格 14. ウエットスーツ として掲載</p> <p>8.スイム種目・区間以外の種目の場合、身体を保護するための衣類（ショートパンツ、ラッシュガード、Tシャツ等）は、主催団体から特別な指示がない限り競技中、任意に着用することができる。</p> <p>9.競技者は、競技に相応しいものであればサングラスやメガネを着用することができる。</p> <p>10.この規定の改廃は、競技運営・審判委員会の議決による。</p>

項目・競技種目	旧（2014年版）	新（2016年版）
器材の規格 （前ページの続き）	（新設）	P.152 12. 救命胴衣 (PFD) <u>(1) クラフト競技種目において任意とする。</u> <u>(2) 競技者が着用する救命胴衣は国際規格またはそれに準じるものを推奨する。</u> <u>(3) 参考として国際規格 ISO12402-5 のレベル 50 または同等のもの。</u>
	（新設）	P.152 13. ヘルメット <u>(1) ヘルメットは、EN1385 または同等のものとする。</u> <u>(2) ヘルメットの色は、自クラブキャップに準じること。</u>
	（新設） ※第9章 付録 「水着に関する規定」の「7.」に記載されていたもの	P.153 14. ウエットスーツ <u>(1) ウエットスーツの厚さは5mm以下とし、各部分の厚さの相違は0.5mmまでとする。</u> <u>(2) ウエットスーツには、浮力や浮揚性を上げるものを含んでいないこと。</u>